

目 次

発刊に際して	1
本研究の趣旨	2
まえがき	3
調査協力委員	5
I 調査の概要	6
1 調査研究の目的	6
2 調査研究の方法	6
3 調査の対象・回収率	9
4 調査の実施	9
II 調査結果	10
1 家庭学習の考え方	10
2 家庭学習の内容	14
3 家庭学習の方法	22
4 教材の使用の実態について.....	28
5 学習塾の利用	34
6 家庭環境など	42
III 調査の考察	48
調査協力校一覧	54
〈付録〉 家庭学習に関する調査問題質問紙	56

調査協力委員

○印チーフ

- | | |
|-------|--------------------|
| 金田義直 | (東京都新宿区立天神小学校教諭) |
| 北見功 | (東京都港区立朝日中学校教諭) |
| ○高橋壯之 | (東京都世田谷区立三宿小学校長) |
| ○河合隆慶 | (東京都新宿区立牛込第二中学校教諭) |
| 松本英之 | (東京都三鷹市立東台小学校教頭) |
| 泉妻輝夫 | (神奈川県横浜市立保土谷中学校教諭) |
| 川瀬富三 | (東京都府中市立第五小学校教諭) |
| 木村清志 | (東京都豊島区立第十中学校教諭) |
| 矢口一郎 | (東京都港区立城南中学校教諭) |
| 井上多恵子 | (東京都目黒区立月光原小学校教諭) |
| 竹牟礼洸 | (東京都世田谷区立太子堂中学校教頭) |

I 調査の概要

1 調査研究の目的

学校における授業と同様に、家庭学習も児童・生徒の人間形成の上から、極めて重要である。しかしながら、児童・生徒の家庭学習は多様であり、その実態を把握することは容易ではない。

知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性をもつ児童・生徒を育成するためには、家庭学習が学校の授業とどのような関連をもって行われているかという実態を把握する必要がある。実態を正しく把握することによって、学校の授業と家庭学習の有機的な関連のあり方を考察し、豊かな人間形成をめざすための改善の方向を探ってみたいと考えた。

本調査研究は、上記の考え方に立ち「学校の授業との関連における児童・生徒の家庭学習の調査研究」という研究テーマを設定し、「家庭学習についての考え方」「家庭学習の内容」「家庭学習の方法」「家庭学習における教材の使用」を主な内容とし、関連的に「学習塾の利用の実態」「家庭の学習環境」などの内容についての調査を行い、家庭学習の問題点と改善点を明らかにしようと試みた。

2 調査研究の方法

本調査研究は、①家庭学習のとらえ方についての共通理解 ②調査内容について ③調査票の作成 ④調査 ⑤集計 ⑥考察 という手順で進められた。

(1) 家庭学習についてのとらえ方

研究テーマをめぐる自由討議で、「家庭学習即宿題か」「戸外での学習活動を含めるか」「学習塾や進学教室での学習も含めるか」「小学生と中学生の家庭学習の相違について」「教科と家庭学習との関連について」など、家庭学習のとらえ方の問題が指摘された。

家庭学習については、塾や進学教室での学習を含めず、家庭における予習、復習、宿題、自主学習をはじめ、戸外での観察・調査等の学習活動を含めた広い範囲の学習活動とすることにした。しかし、いわゆる学習塾での学習の実態についても明らかにする必要もあるので、学習塾の利用の実態については、家庭学習と切り離して調査することにした。

また、小学生と中学生の家庭学習は、質的にかなり違うことも予想されたが、小学生と中学生の家庭学習を比較的・関連的に考察する上から、同じ内容についての問題を作成して調査することにした。

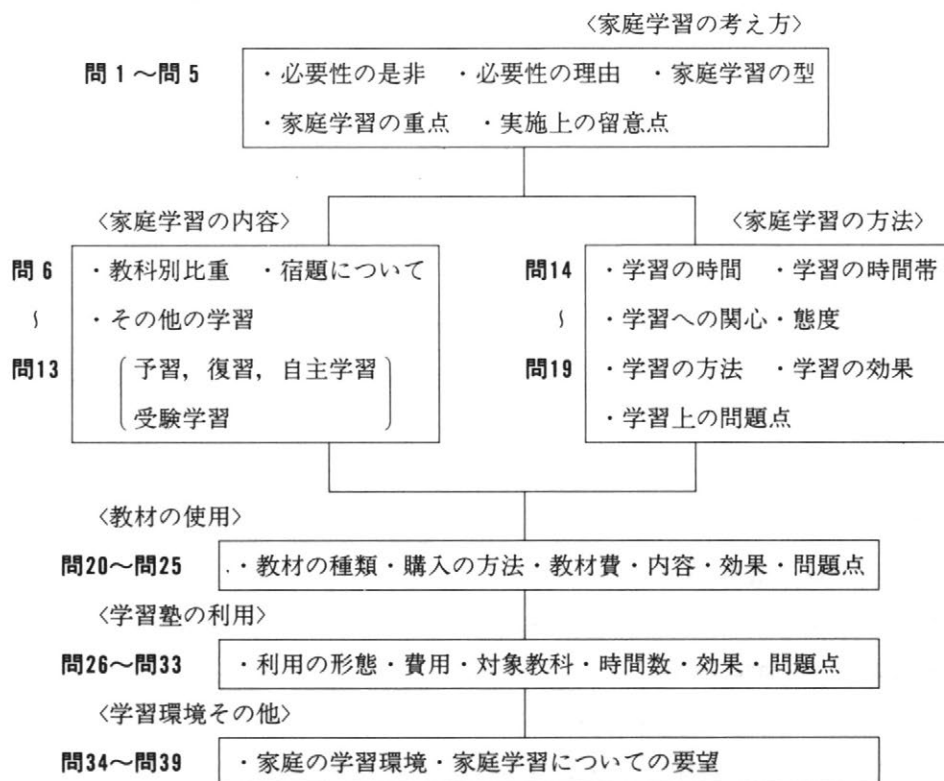
(2) 調査票の作成

各委員の原案をもとにして、とりあげる内容を検討した。原案でとりあげられた内容としては、①家庭学習のねらい ②1日の平均時間 ③教科別比重 ④学習内容 ⑤使用教材 ⑥宿題について ⑦家庭学習による効果と問題点 などが多く出された。これらの内容を整理して次のような項目に分類して問題の内容を細分化し、調査問題を作成した。

- ① 家庭学習の考え方についての問題作成
- ② 家庭学習の内容についての問題作成
- ③ 家庭学習の方法についての問題作成
- ④ 家庭学習における教材の使用についての問題作成
- ⑤ 学習塾の利用の実態についての問題作成
- ⑥ 家庭学習の条件についての問題作成

調査問題は、全体で39問からなり、次のような構成になっている。

調査問題の構成



(3) 調査問題の意図について

前掲のように、調査問題は6種類の項目をとりだし、さらに細分化して行っているが、それぞれ次のような出題の意図によって作成されている。

①家庭学習の考え方(問1～問5)

問1から問5までは、家庭では児童・生徒の家庭学習について、どんな考え方をもっているかをみることがねらいである。家庭学習の目的をどうとらえているか、また、どんな内容を重視しているか、そのために家庭としてどんな点に留意しているかなど、親の家庭学習に対する意識の実態を明らかにしようとしている。

②家庭学習の内容(問6～問13)

問6から問13までは、家庭学習としてどんな内容が取り上げられているかをみることがねらいである。どんな教科に重点がおかれているか、そしてその理由は何か。また、宿題の実施の状況や内容、量、程度はどうか、さらに、家庭学習の学習タイプはどうか、児童・生徒の家庭学習の内容について、その実態を明らかにしようとしている。

③家庭学習の方法(問14～問19)

問14から問19までは、家庭学習がどのような方法で行われているかをみることがねらいである。家庭学習の1日の平均時間とその時間帯はどうか、家庭学習に対する児童・生徒の意欲はどうか。また、家庭学習のしかたや家庭学習を実施しての効果や問題点などについて、とらえようとした。特に、家庭学習によって得られた効果や問題点をとらえ、家庭学習の功罪を明らかにしようとしている。

④教材の使用(問20～問25)

問20から問25までは、家庭学習において教材が、どのように利用されているかをみることがねらいである。どんな種類の教材が使用されているのか、教材をどのように入手しているか、教材に使う費用は年間どのくらいか、使用教材をどのようにして選んでいるか、教材を使用してどんな効果や問題点があったかなど、家庭学習における教材の利用の実態を明らかにしようとしている。

⑤学習塾の利用(問26～問33)

問26から問33までは、学習塾や進学教室など、家庭以外の場での学習の実態をとらえることがねらいである。費用、対象教科、指導してもらった効果や問題点について、学習塾などの利用の実態を明らかにしようとしている。

⑥学習環境その他(問34～問39)

問34から問39までは、各家庭における学習環境はどうかをみることがねらいである。学習場所としての部屋の条件のほかに、家庭学習に対する要望を明らかにしようとしている。

3 調査の対象・回収率

本調査研究の調査の対象は、次の通りである。

- ① 全国公立小学校の児童の家庭(父親・母親)
- ② 全国公立中学校の生徒の家庭(父親・母親)

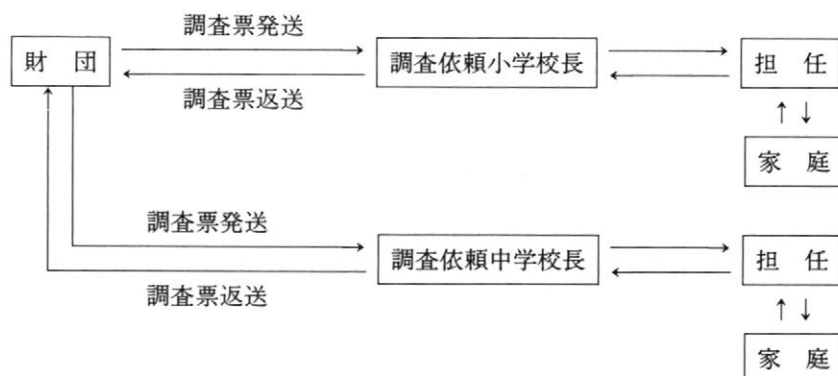
調査にあたっては、児童・生徒の所属学年や調査人数を均等にし、大都市、中小都市、町村など、回答者の居住地域形態についても配慮した。調査校の選定は、全国公立学校名簿により無作為に抽出し、直接学校に調査の趣旨を述べた依頼状と調査票を送付した。

回 収 率

	調査依頼人数	回収人数	回収率
小学校児童の家庭	1,100人	624人	56.7%
中学校生徒の家庭	440人	250人	56.8%

4 調査の実施

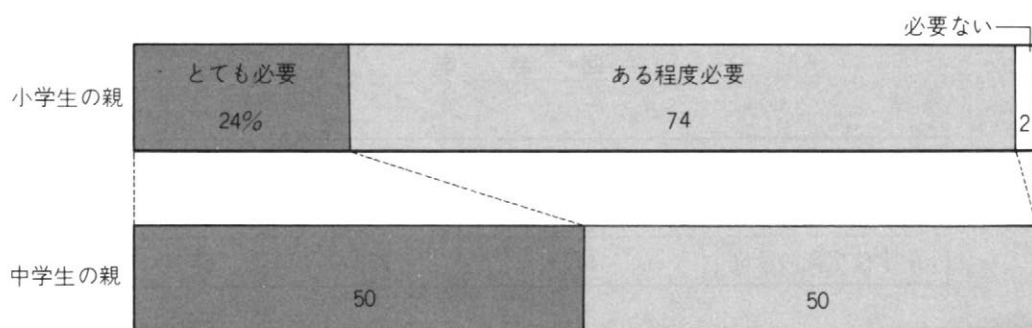
- (1) **調査時期** ・昭和57年6月中旬～7月中旬 約1か月間
- (2) **調査方法** ・調査依頼の小・中学校を通し質問紙調査により実施
- (3) **調査系統**



II 調査結果

1 家庭学習についての考え方

問1 図1 家庭学習は必要か



(1) 家庭学習を重視している親

「家庭学習の必要性の有無」については、図1のように、小学生の親の場合、98%がその必要性を認め、中学生をもつ親の場合は全員の100%が必要であると答えている。このことから、小学生、中学生を持つ親は、家庭学習について関心があり、重視しているといえる。

(2) 小学生では「ある程度必要」が圧倒的

小学生をもつ親では、ある程度は必要と答えた人が74%で、とても必要だと答えた人を大きく上回っている。小学生においては家庭学習の必要性を認めながらも、ある程度の家庭学習が行われればよいのではないかと考えている親が多い。

(3) 中学生では「とても必要」が増加

中学生をもつ親では、とても必要が50%になり半数の家庭に及んでいる。中学生になると、教科の内容が難しくなる上に、高校入試の関係から家庭学習を重視しているといえる。しかし、小学生の親同様に、ある程度必要と答えた親が50%おり、家庭学習の内容、時間などについて無理がないように考えている親が多いことを示している。

問2 図2 家庭学習の必要なわけ

	学習の習慣を身につける	基礎学力を身につける	授業に役立つ	成績を向上させる	その他・無記入
小学生の親	39%	27	12	5	17
中学生の親	36	21	15	10	18

(1) 家庭学習の必要理由の第1位は「学習の習慣化」

家庭学習が必要な理由については、図2のように、小学生を持つ親の39%、中学生を持つ親の36%が、「学習の習慣を身につけるため」と答え、最も多い。このことは、小学生・中学生ともに机に向かい、学習の習慣をつけさせたいという親の願いがこめられているといえよう。同時に学習は他から強制されてするのではなく、自発的に行うことが重要であるという考えの表れともいえる。

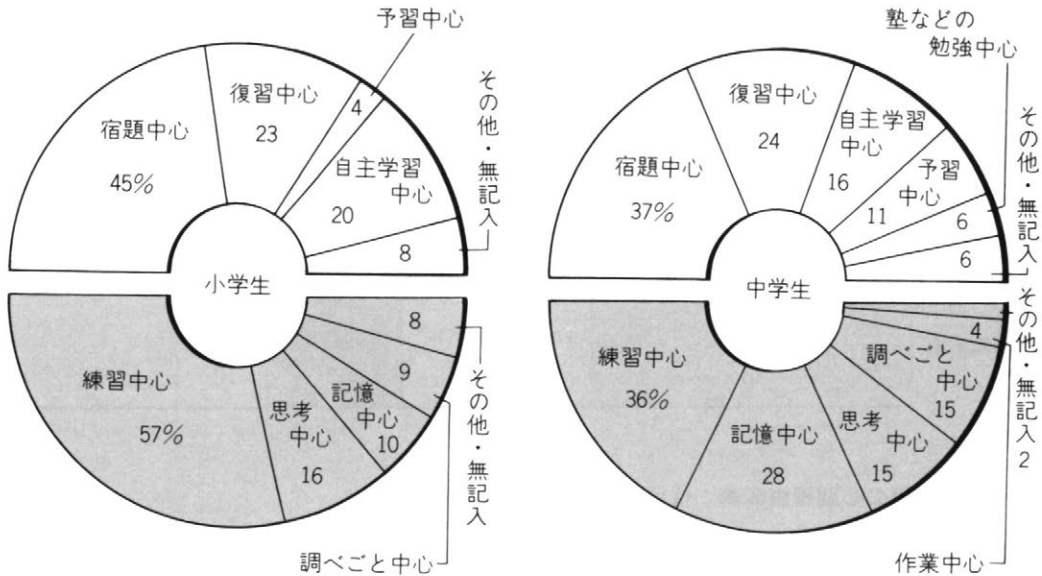
(2) 親の願いは学力の向上

小学生の親では、「基礎学力の向上」「授業に役立つ」「成績向上」の3つを合計すると44%に達する。一方、中学生の親の場合はこの3つをトータルすると46%になる。どちらも50%に近い数字である。このことは、家庭学習が学力の向上を目的としているということができよう。家庭学習の習慣化もそれによって学力の向上を期待しているものと考えられる。

(3) 長所を伸ばすとか、教養を高めるとかは期待していない。

小・中学校の教育課程では、ゆとりのある教育が叫ばれ、小学校裁量の時間等で、自分の関心のあるものへの追求（自由研究）等が重視されている。「好きこそ物の上手なれ」のたとえの如く、長所を伸ばすことにより、学習の効果を高めようとするものである。しかしながら、家庭学習では、このような考えはほとんど支持されていない。（小学校の親1.5%、中学生の親3.6%）家庭学習により学力を高めるといった即効性を期待しているのである。即断はできないが、少しでも良い学校へ進学させたいという親の願いの反映といえよう。

問3・4 図3 家庭学習のタイプ



(1) 家庭学習のタイプは圧倒的に宿題中心

小学生の45%、中学生の37%が学校の宿題を行うと答えている。これは家庭学習の中で宿題が占める割合の大きいことを示している。宿題を課すということが、小・中学校において我が国の学校教育の慣習になっている以上、家庭学習の中心が宿題になるのは当然といえる。

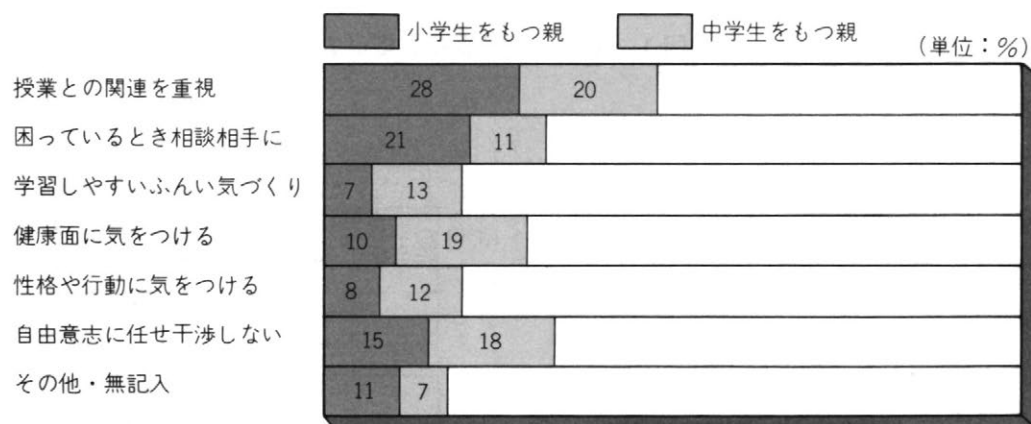
次に復習中心が小学生で23%、中学生で24%となっている。一方、予習は小学生が4%、中学生が11%と比較的低い。いずれにせよ、これらを学校の勉強の延長としてとらえると、小学生、中学生ともに72%と高率になる。

(2) 小学生も中学生も練習中心の家庭学習

問4では「家庭学習で力を入れていること」を問うている。図3で示しているように、小学生の57%、中学生の36%が練習中心と答えており、他と断然かけ離れているのである。これは、漢字や計算等の反復練習を要するもの、ドリルの要素の多いものが行われていると見ることができよう。このことは、学校の学習で消化しきれないものの一部は、家庭学習で補っているという一面を示しているのかもしれない。

更に中学生では、記憶中心の学習が28%を占めている。高等学校への受験勉強などと無関係ではないように思われる。思考中心の学習よりも、練習中心、記憶を重視する学習が依然として行われている表れともいえよう。

問5 図4 家庭学習を効果的にするための留意点

**(1) 小・中学生ともに授業との関連を重視**

すでに問2, 3でも明らかになっているように、小・中学生の親は、家庭学習を効果的に進める留意点として学校の授業との関連を重視している。(小学生の親28%, 中学生の親20%) このことは何といても、授業を抜きにした家庭学習は考えられないといった現状を如実に表している。子どもの自由意志での創作や長所を伸ばすための自己学習などの余地はあまり考えられていないようである。

(2) 小学生では親が子どもの相談相手

小学生の親の21%が「子どもが困っている時相談相手になってやるようにしている」と答えている。子どもが小さいこともあり、親が子どもの相談相手になることが家庭学習を軌道にのせる大事な要因になっていることを示している。同時に、小学生の学習内容が、親でも指導できるということも関係しているものと思われる。

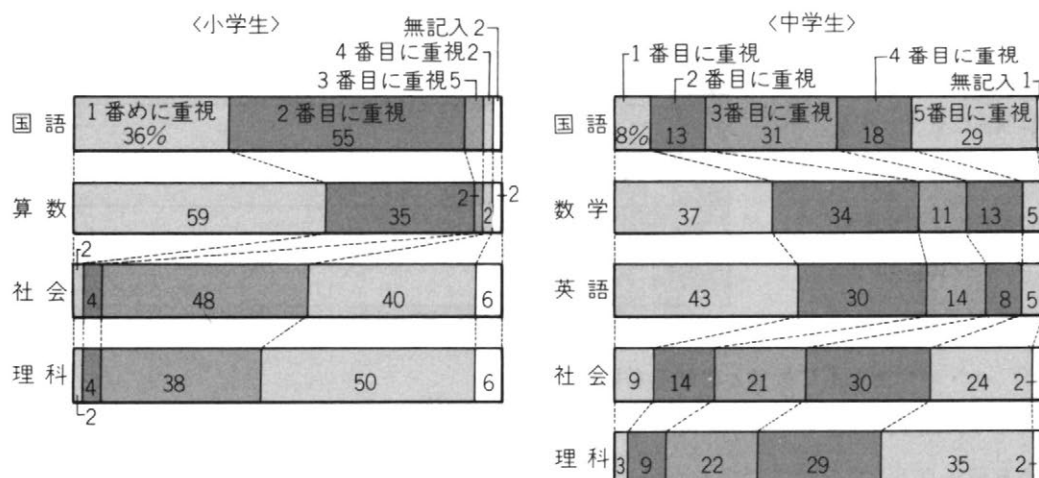
(3) 中学生の親は、家庭学習のふんい気づくりに使っている

小学生の親の場合、健康や性格・行動の変化、ふんい気づくり等に気を使うと答えている親は25%である。これに対し、中学生の親は44%と、かなり高率を示している。このことは、中学生を子に持つ親の場合は、学習のふんい気づくり、子どもが家庭学習に容易にとりくめるような条件整備に気をくばっていることを示している。中学生の場合、親が口やかましく干渉しすぎては、かえって逆効果を及ぼすという考えから、子どもの発達段階に応じた留意をしているものと思われる。

一方、「子どもの自由意志にまかせ、あまり干渉しないようにしている」と答えている親が小学生で15%、中学生で18%いる。どんな考えから子どもの自由意志に任せているのかは不明である。

2 家庭学習の内容

問6 図5 家庭学習で重視している教科



(1) 小学生では算数，中学生では英語がトップ

図5でみるように、小学生では算数・国語，中学生では英語・数学が断然他の教科をひき離している。前もって予想された通りの結果である。

(2) 小学生では算数・国語

小学生では、算数を最重視する者が59%、国語を最重視する者が36%である。しかし、1番と2番にあげた者を足すと、国語91%、算数94%と、ほとんどの親が国語と算数を家庭学習の柱と考えているようである。

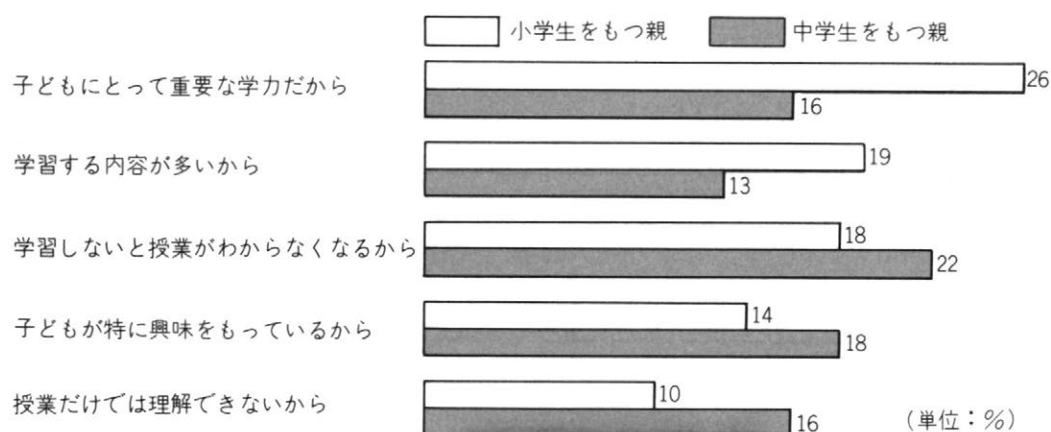
「読み、書き、そろばん」という昔ながらの教育観と合致しているとはいえ、読解・表現力と計算能力は、小学生の学習の基礎になるという点から国語・算数というのは妥当な選択といえる。

(3) 中学生では英語・数学

中学生では、英語を1番とした者43%、数学を1番とした者が37%という結果である。1番と2番にあげた者を足すと英語73%、数学71%である。小学生ほど極端な数字ではないが、やはり教科に偏りが見られる。小学生では高かった国語は1番と2番にあげた者を足しても21%足らずである。

全体的に中学生では、学習内容が多く、重点的に学習しないと授業についていけなくなるという教科がとくに重視されているようである。

問7 図6 なぜ重視する教科なのか



(1) 「授業の理解を深めるため」がトップ

上のグラフは重視する理由を上から5つ選んだものである。理由を2つずつ挙げたこともあって、どの理由も小差で並んでいる。また、小・中学生で、上位5つの理由が全く一致した(順位は異なるが)のは興味深い。これらの理由は、表現の違いはあっても、学力の充実を中核として、「授業の理解をより深めるため」と集約することができよう。

(2) 小学生では「重要な学力だから」がトップ

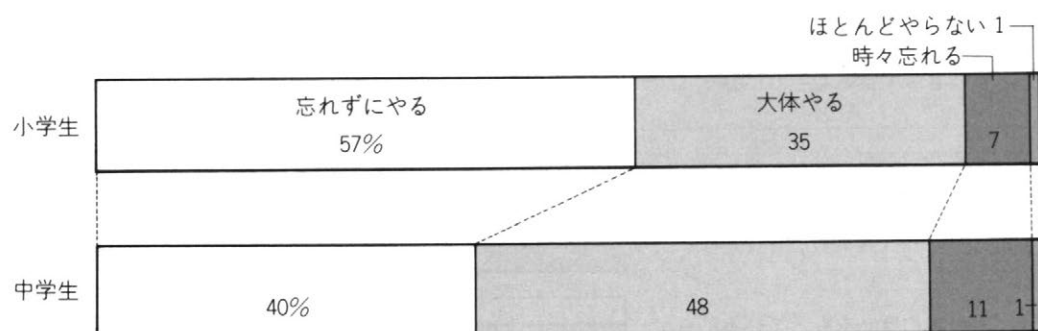
小学生が重視する教科は、国語・算数であり、その理由として「子どもにとって重要な学力だから」が最高を示している。学力の基礎を算数・国語に求めているのは肯定できる。学年が進むにつれ、「学習内容が多いから」「学習しないと授業が分からなくなるから」が少しずつ増え、5・6年ではこれらが理由のトップとなってきている。しかし、「重要な学力だから」という理由が軽視されているわけではなく、大きな理由の1つであることには変わりない。

小学生の重視理由を全体的にみると、「子どもが興味をもっているから」以外の理由は互いにかかわりあっていることがわかる。「重要な学力だから」を中核とし、「学習内容が多い」から「家庭学習をしないと授業が分からなく」なり「授業だけでは理解できなくなる」といった一連の流れを持ったものとなっている。

(3) 中学生では「学習しないと授業が分からなくなるから」

中学生では、英語・数学が重視教科として挙げられ、その理由としては「学習しないと授業が分からなくなる」がトップである。小学生同様、他の3つを含めて1つの理由と考えると、授業における英語・数学の難しさとかかわっているといえる。

問 8 図 7 宿題はやられているか



(1) ほとんどが忘れずにやる

上図の「忘れずにやる」「大体やる」を合計すると、小学生92% 中学生88%となり、宿題は、家庭学習の大きな分野として位置づけられていることがわかる。

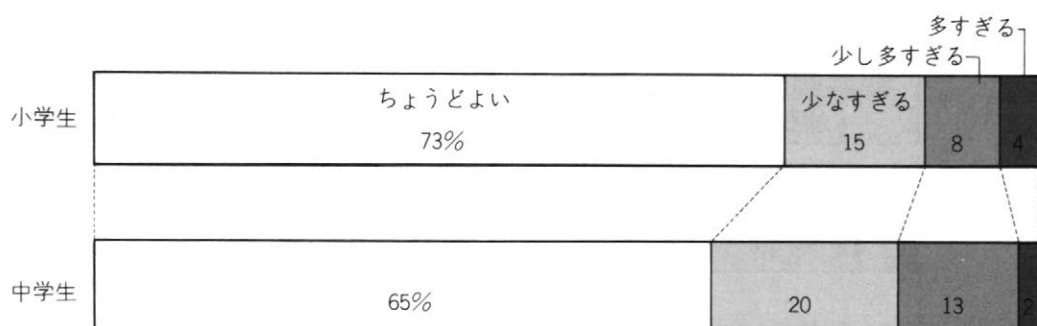
(2) 小学生にとって宿題は当然の義務

小学生では、宿題は当然やらなければならない義務として、親も子も受け取めている。「宿題がなければ、勉強しない」と言う声も宿題と家庭学習が、不即不離の関係にあることを物語っている。「時々忘れる」は、学年が進むにつれて増えてきているが、問題にする数ではない。宿題が家庭学習の大きな分野として位置づけられているのは、宿題の多くが学習問題をプリントしたものであり、しかも、学校での学習内容に密着し、容易に取り組むことができるからであろう。

(3) 中学生では宿題も自主学習の一部

中学生では、「忘れずにやる」よりも「大体やる」が上回ってきてはいるが、これは宿題の質的变化によるもののようである。つまり、自主的な学習態度が身につく、宿題も小学生のように出題されたものをやればよいというものから、自ら課題をみつけて調べ、まとめるといった宿題が増えてきたため、それらの取り組みも、そう簡単にはいかないであろう。また、課題解決の満足度を「大体は調べられた」「大体はまとめられた」として、質的に「大体やる」と答えているものもいるようだ。「時々忘れる」「ほとんどやらない」も、小学生より増えているが、依然少数である。

問9 図8 宿題の量は適切かどうか



(1) 大多数は適量と判断

宿題の量については、同じ量の同じ程度であっても、子どもひとりひとりの能力や教科の得手不得手、またその時の心理状態など、様々な要因によって受け取め方に変化が生じることは否めない。しかし、全体として眺めたとき、大多数の親は「ちょうどよい」と判断できるとしている。とはいえ、中学生の親は、小学生の親に比べ、「多すぎる」「少なすぎる」のいずれも増えており、宿題への不満は少し増加している。

(2) 小学生では、ほとんど適量と評価

小学生では、宿題のほとんどが学校での学習の延長線上のものであり、問題をプリントしたドリル的なものが多い。取り組み易く、量も抑えてあるのでそれほど負担を感じないようである。しかし、グラフの右側の表で見ると、5・6年では「ちょうどよい」の割合が、中学生並みに落ちこんでいる。これは、家庭学習としては、現在の宿題の量だけでは不十分だという親の心理であろう。

(3) 中学生の親の評価はさまざま

中学生においては、小学校高学年での傾向がいよいよ顕著になって、「ちょうどよい」とする親は65%に減っている。「宿題だけで、家庭学習のすべてとするには、ものたりない」という傾向が強まり、宿題にとられる時間を他の自主的な学習にふり替えさせたいと望んでいる親は15%に達している。

その反面、「少なすぎる」とする親も20%あり、量・質ともに豊富な宿題をこなすことによって家庭学習を充実させたいという傾向もうかがえる。

問10 図9 学校から出される宿題の程度は

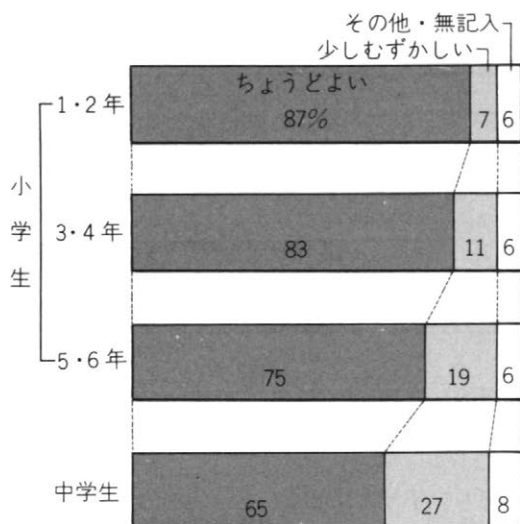


表1 学年別にみた回答の内訳(%)

項目	小学生						中学生
	1	2	3	4	5	6	
とてもむずかしい	0	0	0	2	1	1	2
少しむずかしい	6	7	14	9	16	22	27
ちょうどよい	80	79	76	85	81	71	64
やさしすぎる	6	14	4	4	2	5	6
無記入	8	0	6	0	0	1	1

(1) 「ちょうどよい」と受けとられている宿題

宿題の内容について、その難易の程度を一律に問うことはむずかしい。教科の特性や、出した宿題の内容が復習をねらったものか予習をねらったものかによっても差異があると思われる。その中で、小・中学生共に「ちょうどよい」という回答が圧倒的に多い。

(2) 「ちょうどよい」が多い意味

小学生の低学年ほどちょうどよいとする比率が高い。これは、家庭でもみてやれる程度であったり、本人だけでも対応できるような宿題であることが想定される。

このことは、教師が授業内容を反復して学習させ、学力の向上と定着を図った出題をしていることを示している。漢字の書き取りや計算例題などのドリル的なものが多いのではないだろうかと思像される。

(3) 高学年になるほど、「少しむずかしい」がふえている

小学生の高学年と中学生は、「少しむずかしい」がふえているが、課題学習的な宿題が多くなったり、学習内容の程度が少しずつ高度になることで家庭の手助けが得られなくなり、印象として少しむずかしくなったようだと回答したのではないかと考えられる。

問11 図10 宿題がむずかしいときどうしているか

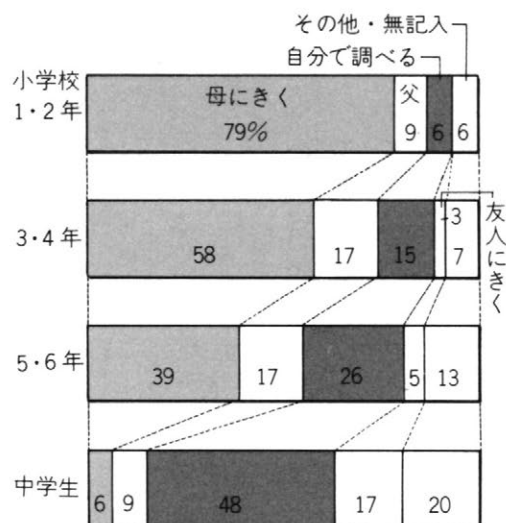


表2 学年別にみた回答の内訳(%)

項目	学年	小学生					
		1	2	3	4	5	6
自分で調べる		5	8	14	16	15	34
友人に聞く		0	0	7	1	0	9
父親に聞く		10	7	12	20	18	17
母親に聞く		78	81	63	55	53	28
そのままにしておく		0	1	0	2	4	1
その他		7	3	4	6	10	11

(1) 母親に聞く小学生

小学生は、低学年・中学年とも家人に聞くものも多く、とくに母親に聞くものの比率が非常に高い。

しかし、高学年になるにつれ、母親に聞くものが減り、自分で調べるものが徐々に増えている。

(2) 自分で調べる中学生

中学生は、母・父など家人への依存度が激減し、自分で調べたり、友人に聞くものの比率が圧倒的に高い。

前問10の解釈と同様に、学習内容の高度化に対して家人の手助けが得にくくなったこと、課題学習的な宿題が増えていくことなどがあげられよう。友人の家へ行って勉強するという生活上の変化も関係しているものと思われる。

また、中学生になって部活動への参加があると、帰宅時間も遅くなり、小学生時代るときほどには家人との接触が行われないことも要因となるであろう。これに加えて、意識の上で、中学生になったら自分で勉強するのだという姿勢への転換をあげることもできる。

問12 図11 最もよく宿題に出される教科

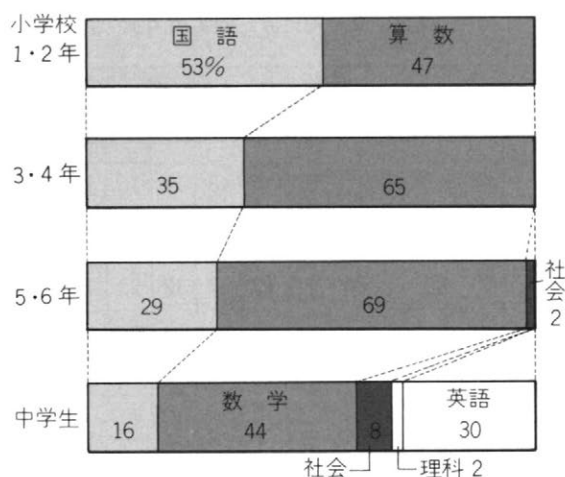


表3 学年別にみた回答の比率(%)

教科	学年	小学生					
		1	2	3	4	5	6
国語		58	47	44	30	25	35
算数(数学)		42	53	55	70	74	65
社会		0	0	0	0	1	0
理科		0	0	1	0	0	0

(1) 断然多い国語と算数の宿題——小学生

宿題の多い教科は何かとの設問に対して、小学生の場合はほぼ全員が国語と算数を1位にあげている。社会・理科を1位にあげたものは僅少であった。その宿題内容までにはうかがうことができないが、問10の回答にみられるように、「ちょうどよい」とするものが多いことと関連させて考察すれば、ドリル的なものとみることができよう。

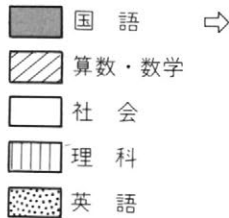
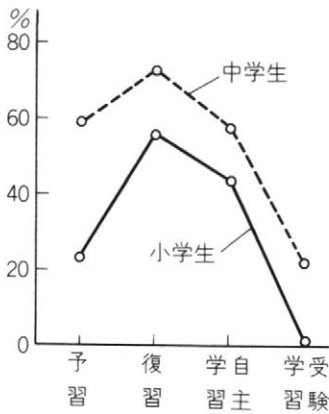
国語と算数とではどちらが多いかをみると、低学年では国語がやや高いが、中・高学年になると算数の比率が高くなっている。

(2) 5教科にわたって宿題の出る中学生

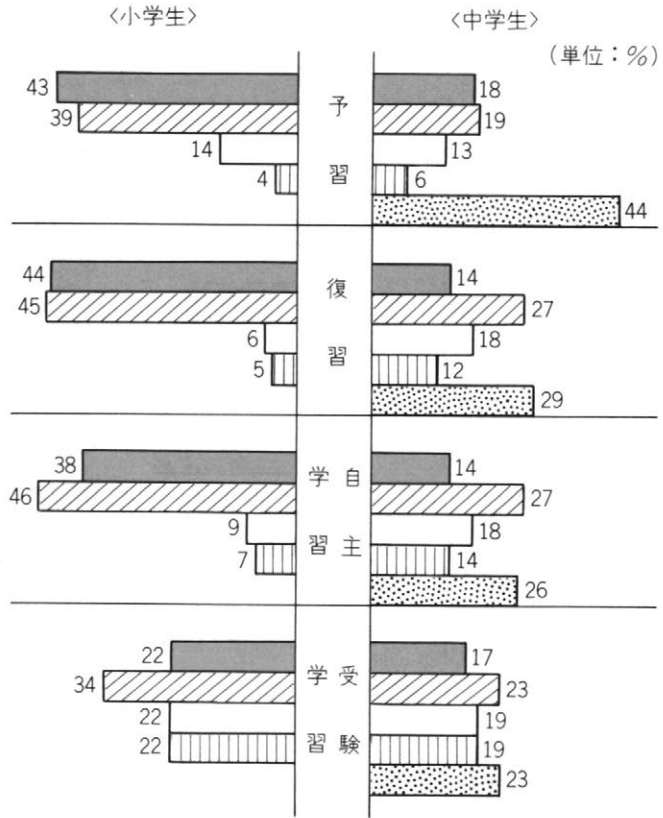
小学生の宿題が国語と算数の2教科中心であるのに対して、中学生の場合は比率こそ違っても、1位としてあげた教科は5教科の全般にわたっている。特に数学と英語の比率が高いが、英語もドリル的な要素を強くもっていることに注目したい。

ただ、中学生の宿題を考えると、小学生と基本的異なる点は教科担任制ということである。学級担任制の小学生の場合、宿題の量などについて配慮ができるが、中学の場合は他教科と連絡をとり合って宿題を出すことまでは、考慮されていないようである。

問13 図12 家庭学習の内容



問13 図13 家庭学習で行う教科



(1) 目立つ自主学習

この設問では、宿題への対応を離れての家庭学習についての問である。予習、復習の比率が高いのは当然といえるが、自主学習が高いことに注目したい。その様態は明確ではないが、予習・復習以外の学習も含まれていると考えてよいであろう。受験学習は当然のことながら、小学生にはほとんどなく、中学生で高くなっている。

(2) 教科が偏る小学生、平均的な中学生

次にそれぞれどの教科を学習するのかについては、図13に見るように、全体に小学生では国語・算数、中学生では数学・英語の比率が高い。しかし、小学生はこの2科目以外はほとんどしていないのに対して、中学生は比較的平均的に学習を進めている。

その教科を学習する理由については、予習では「授業をよく理解するため」、復習は「重要な教科であり」「やらないと理解できない」という回答が小・中学生に共通しているが、小学生では「宿題として出るから」という回答も多く、宿題に頼る家庭学習の姿が見える。

3 家庭学習の方法

問14 図14 1日の家庭学習時間

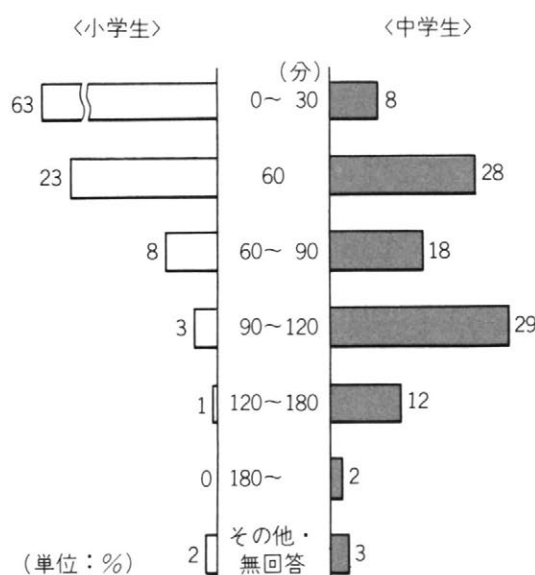


表4 小学生の学年別比較(%)

時間 学年	10分	20分	30分	1時間	その他 無回答
1	23	36	28	6	7
2	8	21	50	13	8
3	4	15	48	30	3
4	3	12	48	24	13
5	4	13	35	27	21
6	3	4	23	39	31

(1) 小学生は1時間以内、中学生は1時間以上

図14に見るように、小学生では30分以内の家庭学習が63%と大半を占める。1時間程度のものを加えると86%という高い比率になる。これに対して、中学生では1時間未満は8%しかなく、最低1時間の家庭学習をしている。中学生の場合、グラフではばらつきがあるものの、1~2時間に75%が集中している。このことから、中学生は小学生の2~3倍の時間家庭学習をしていることがわかる。

(2) 小学生は学年が進むほど家庭学習時間が伸びる

表4を見ると小学1年では10分程度が23%もあるのに、3年以上では3~4%と非常に少なくなっている。これに対して2~5年では30分程度、6年では1時間程度が最高値になっている。宿題だけをやれば良かった低学年から次第に、予習・復習へと家庭学習の内容も豊かになっていくことが推測される。

(3) 中学生は1~2時間の家庭学習がほとんど

中学生では1~2時間の学習時間が75%を占めている。そのうち1時間程度が28%あるが、塾などに通う生徒が約半数いることを考えると、家庭での学習時間は案外短いのではないかと考えられる。

問15 図15 いつ家庭学習をするか

(%)

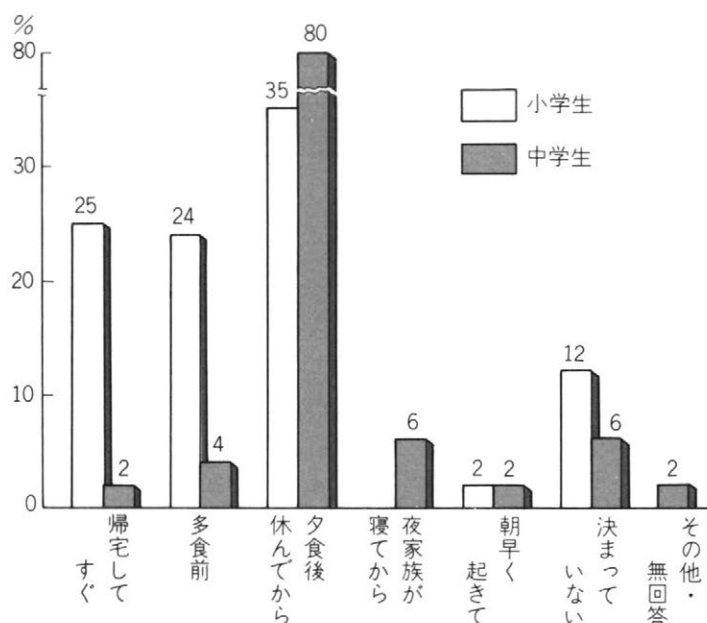


表5 小学生の学年別比較

学年	帰宅してすぐ	夕食前	夕食後休んでから
1	44	22	12
2	31	27	18
3	35	25	29
4	21	17	42
5	14	32	45
6	6	20	60

(1) 小学生は夕食前、中学生は夕食後の家庭学習が多い

家庭学習の時刻については、小・中学生ともに、夕食後休んでからというのが最高値である。ただ、数値を見ると小学生では、帰宅後すぐと夕食前も多いのに対し、中学生では夕食後が圧倒的に多い。中学生ともなるとクラブ活動などで帰宅が遅くなることも関係していよう。

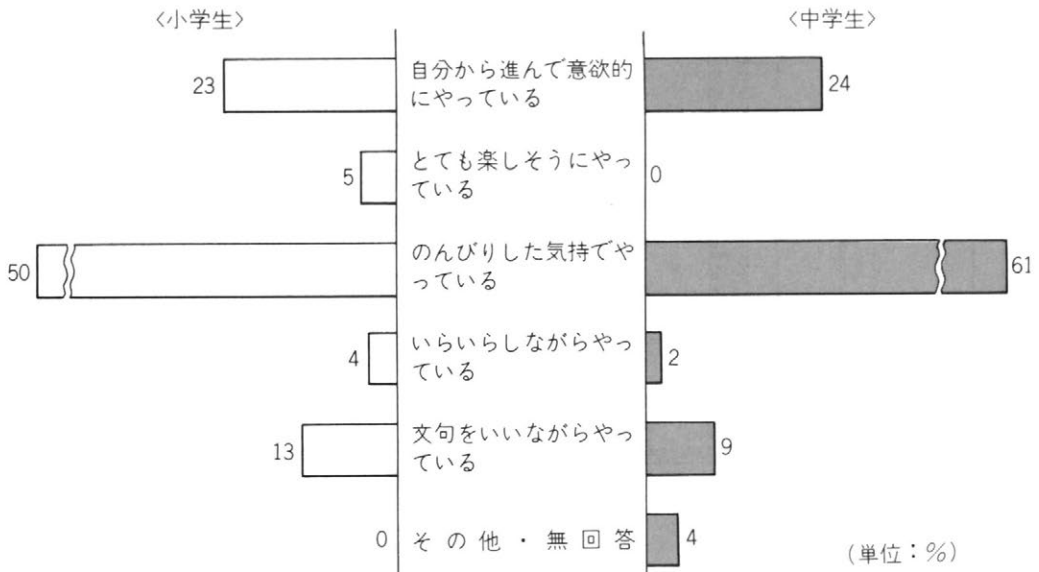
(2) 小学生も学年が進むにつれ、夕食後が多くなる

小学生全体では、帰宅後すぐ、夕食前、夕食後の3つに分散しているが、これを学年別で見ると、1～3年では帰宅後すぐが最も多く、夕食前がそれに次いでいる。それが、4年生以上では夕食後が最も多くなり、6年生では60%にも達している。これは問14の回答とも呼応するが、帰宅してすぐ10～20分かけて宿題だけをやれば良いという低学年に比べ、予習・復習とも1時間近くも学習する高学年では、やはり夕食後のまとまった時間を学習に当てるようになるということだろう。クラブ活動、塾などで帰宅時刻が遅くなるのもこの頃である。

(3) 家庭学習の型が固定している中学生

中学生になると、ますます帰宅時刻は遅くなり、学習時間は増えるので、夕食後の学習になるのは当然であろう。夜家族が寝てからという答が6%あるが、9時10時から勉強開始というのは中学生として健全さを損なわないだろうか。なお、「決まっていない」が、小学生の12%に比べ半減している。中学生は家庭学習に関しては自分の型を持っているといえる。

問16 図16 家庭学習に取り組む態度はどうか



(1) 小・中学生とも「のんびりした気持ちで」学習している

この問いに対する回答では、「意欲的に」と「楽しそうに」の2つは学習に対する積極的姿勢、「いらいらしながら」、「文句をいいながら」の2つは消極的姿勢といえる。小・中学生に共通して最も回答数の多い「のんびりした気持ちでやっている」というのは、どういう姿勢といえよまいだろうか。良くいえば家庭学習を当然のことと受け取め、余裕をもって学習しているともいえるが、反面、自主性が見られないということともつながるのである。親の回答であるので、子どもがどういう気持ちで学習しているのか、親はとらえていないともいえる。

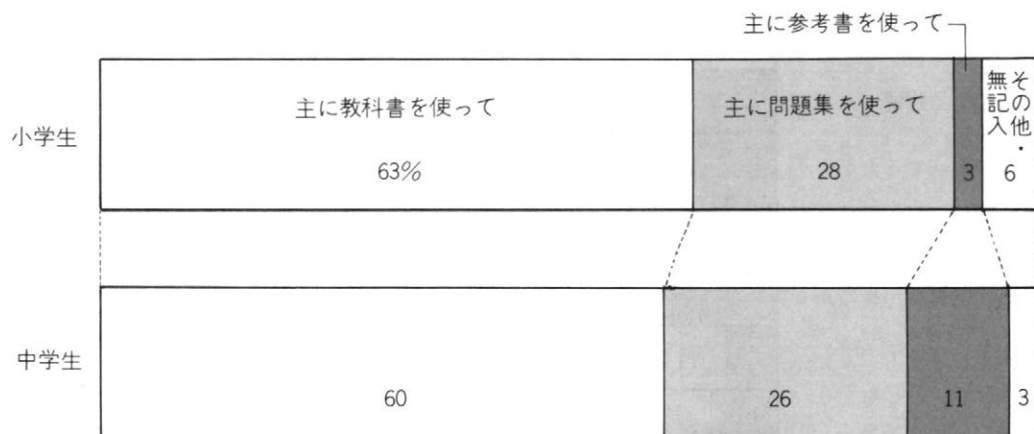
(2) 小学生は半数がのんびりやっている

小学生を見てみると、のんびりやっているのが50%、意欲的に楽しそうにやっているのが28%である。学年別にみても同じ傾向である。小学生は学習時間も短く、宿題中心で取り組み易いので、家庭学習に対する拒否反応は少ないはずであるが、「文句をいいながら」が13%いる。

(3) 中学生でも意欲的なのは4人に1人

中学生になれば家庭学習のパターンも決まって、落ち着いた態度で学習しているのかのんびりやっているという回答が61%を占める。受験や学習内容の高度化の割には、意欲的な中学生は24%と少数である。

問17 図17 どんな方法で家庭学習をしているか



(1) 主役はやはり教科書を使って

家庭学習の方法を問う問17については、小学生の63%、中学生の60%が「主に教科書を使って」家庭学習を行っていると答えている。このことは、家庭学習が学校での授業を中心としてそれを補足する形で行なわれていることを示している。問3の「家庭学習は宿題・復習中心」という結果からもこのことが裏づけられよう。なお、「主に問題集を使って」という答えも小学生で28%、中学生で26%もあるが、それがいわゆる受験中心の学習法といえるかは疑問である。

(2) 小学生では参考書は使わない

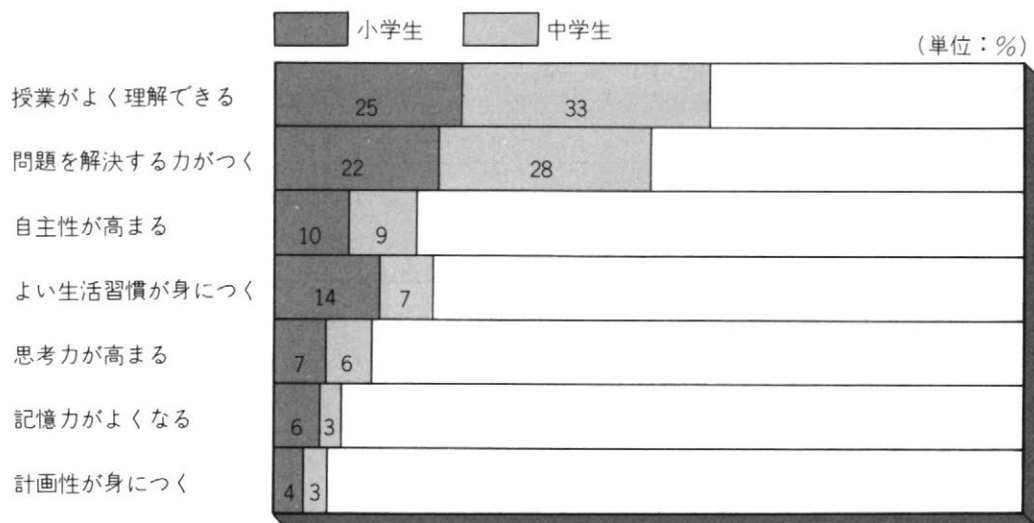
① **中学年は特に教科書主力** 小学生の学年別傾向をみると、主に教科書を使ってと答えているのは低学年56%、中学年69%、高学年61%である。3、4年生の中学年に特に教科書を使っての家庭学習が多いのは、学校での学習内容がこのころから難しくなることにも関連があると考えられよう。

② **主に参考書を使う小学生は3%以下** これには、小学生の場合は親の手助けがあったり、うまく参考書を使いこなせない、などの理由が考えられる。まだ参考書を使って自主的に学力をつけてゆくという学習のしかたではないことが表れている。

(3) 中学生では参考書の使用が増加

中学生でも教科書中心の家庭学習が多いが、参考書の使用が小学生に比べると大幅に増加していることがわかる。これは問3の「予習中心の家庭学習は11%」と呼応している。「主に参考書を使って」ではなく、補助的に参考書を使っている割合はずっと高いことが推測される。学習内容が高度になり、教科書だけでは内容が理解しにくくなること、自分の力で問題を解決しようという意欲の高まりの結果と考えられる。

問18 図18 家庭学習をしてどんな効果があったか

**(1) 授業の理解に効果あり**

家庭学習の効果について、小・中学生ともに親の半数は、「授業の理解や問題を解く力をつける」のに効果があったと答えている。この数字は、「よい生活習慣がつく」ことや「自主性が高まる」ことなどの、生活面での効果を大きく上回っている。このことは、家庭学習によって授業の理解度や問題解決力の増大という学力増強の効果が親に認識もされ、期待もされていることを示している。

(2) 小学生にはしつけ効果も期待

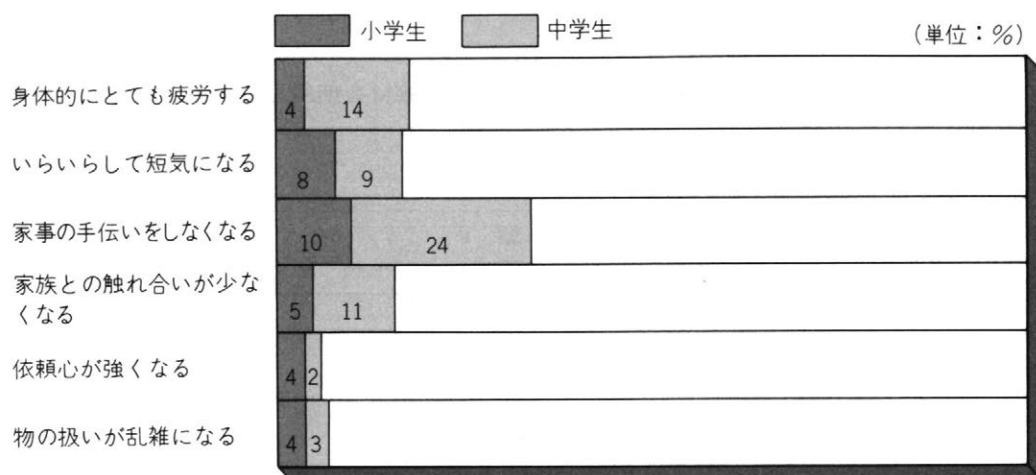
小学生の親も、家庭学習が学習効果をあげていることは47%もの親が認めているが、よい生活習慣がつくことや自主性・計画性が高まることなどのしつけ面での効果をあげている人も28%と比較的多い。小学生という発達段階を考えれば当然のことといえる。

無回答が11%と中学生の場合の2%を大きく上回っているのが注目されるが、小学生の段階では家庭学習の効果をはっきりとはつかみにくいということであろう。

(3) 中学生では学力増強に効果

中学生の親になると、授業の理解や問題を解く力に学習効果があると認めている親は61%にも達し、小学生の場合の数字を大きく上回っている。また、小学生の親に見られたようなしつけ的な効果を認めている親は19%である。中学生では、学習内容も高度になり、学力の増進と家庭学習がより密接に結びついてくる結果と考えられる。無記入が極端に少ないのも、中学生にとっては日々の家庭学習が重要なものと受け取られていることの表れであろう。

問19 図19 家庭学習によってどんな問題が生じているか



(1) 家庭学習による問題点とはとらえにくい

この問いに対しては、無回答が小学生の親で30%、中学生の親で21%と非常に多い。これは、家庭学習によって特に目につくほどの問題は生じていないとみてよいだろう。問14の家庭学習の時間を見ても小学生で1時間以内、中学生でも1～2時間が最も多いのを考えれば、それは十分にうなづける。問題が生じた場合も、個人差が大きく、一般的特徴を示すには至っていない。

(2) 小学生では家庭学習による問題はない

小学生の親の回答では、「その他」と「無記入」が圧倒的に多い。「その他」の内容も「問題はない」がほとんどなので、一般に小学生の親は家庭学習によって問題は生じていないと考えていると受け取れる。問題をあげている人では、多数の項目に回答が分散し、一番多い答えでも「家の手伝いをしなくなった」の10%にすぎない。

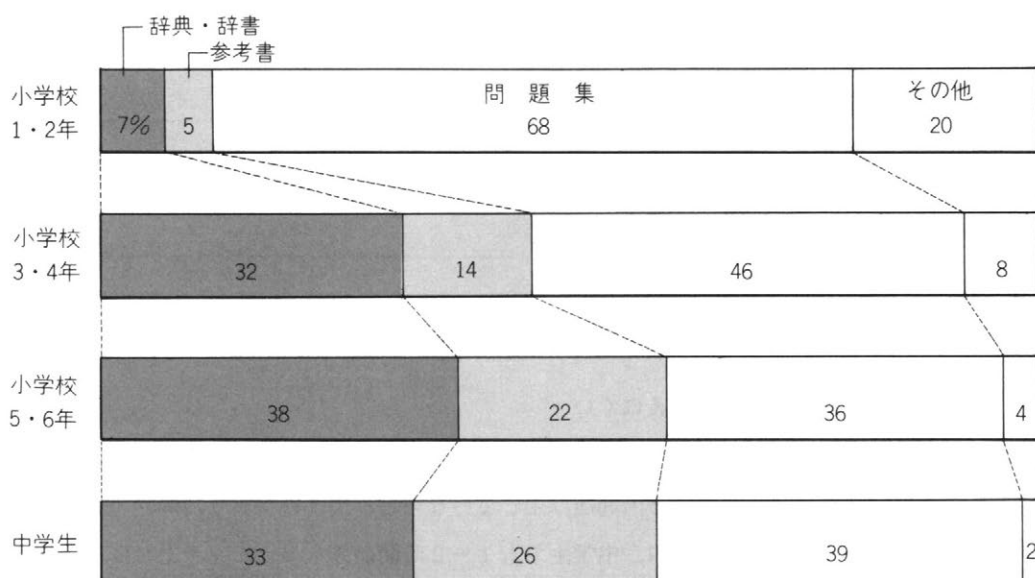
(3) 中学生では手伝いや健康に問題

中学生になると、家庭学習によって、「家の手伝いをしなくなった」り、「家族との触れ合いが少なくなる」などの問題が、はっきりと親に認識されてくる。ただ、これは必ずしも家庭学習だけのせいではなく、中学生という発達段階の特徴でもあることは考慮に入れておく必要がある。

もう一つ小学生と比較して、「身体的にとっても疲労すること」や「体力がおちてくる」ことなど身体的な面での問題をあげている親が17%もいることは注目すべきであろう。家庭学習の時間の増加や内容の難しさによる負担が、中学生では急増している。「その他」や「無記入」も少なく、ここでも中学生の学習の負担が親に強い問題意識を持たせていることがうかがえる。

4 教材の使用の実態について

問20 図20 家庭学習でどんな種類の教材を使用しているか



(1) 小学生は国語，算数の2教科が圧倒的

小学生，中学生とも問題集と取り組む家庭学習が目につくが，その中でも小学校では国語と算数が群を抜いている。低学年では68%中48%，中学年では46%中34%，高学年では36%中28%という高い割合である。

(2) 中学生は数学，英語，社会，国語の順で平均的

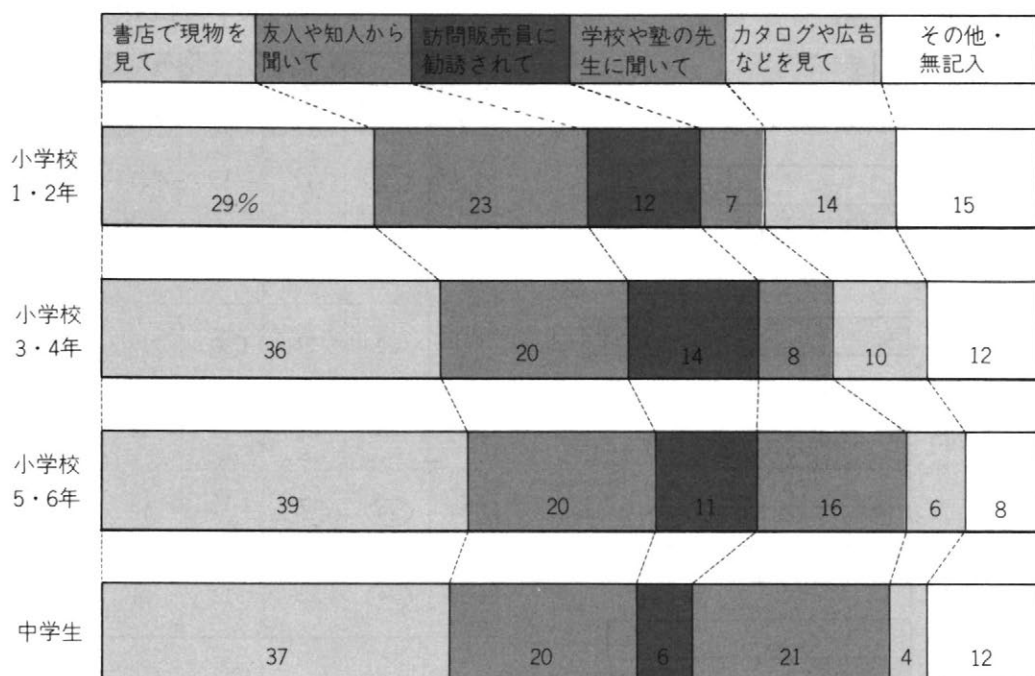
中学生になると参考書の占める割合が一段と増し，問題集も小学生とは大きく変化してくる。問題集39%中，数学10%はやはり高い割合であるが，続いて英語9%，社会7%，国語，理科6%と各教科を平均して学習している。

また参考書では，小学校高学年から中学生に至るまで社会，算数(数学)，が2本柱である。

(3) 問題集ばかりがなぜ選ばれる

小学校高学年や中学生ならわかるような気もするが，小学校の1・2年から問題集に追いまかれるのは理解できない。このことから家庭学習のあり方が問題とされよう。

問21 図21 家庭学習の教材は、どのようにして手に入れているか



(1) 確かな教材の選び方

小学校の低学年から中学生に至るまで、教材の入手方法の主流は、まず書店に出向くということになる。父母や子どもたちが、書店で現物を手にとり、よく内容を確認してから購入するというこれ以上確かな方法はないのである。次に、信頼できる友人、知人からの紹介である。これも間ちがいのない方法で、この二つで9か年を通しての家庭学習の教材入手の過半数を占めている。

さらに、訪問販売員、学校の先生など専門家ともよく相談していることがうかがえる。

(2) 学校の授業と結びつく家庭学習

問20とも深いかかわりを見せているのは、小学校高学年から中学校の教材入手の変化である。それまで比較的大きな割合を占めていた訪問販売やカタログ、広告などによる入手が激減して、授業に対しての家庭学習というとらえ方から学校の先生や塾の先生からすすめられる教材を選んでいることである。

学校の成績向上に直接役立つ家庭学習、さらには受験に役立つ家庭学習をしていくための教材を手に入れることは、今日の児童・生徒の必須事項なのかもしれない。

問22 図22 家庭学習の教材にあてる年間の費用

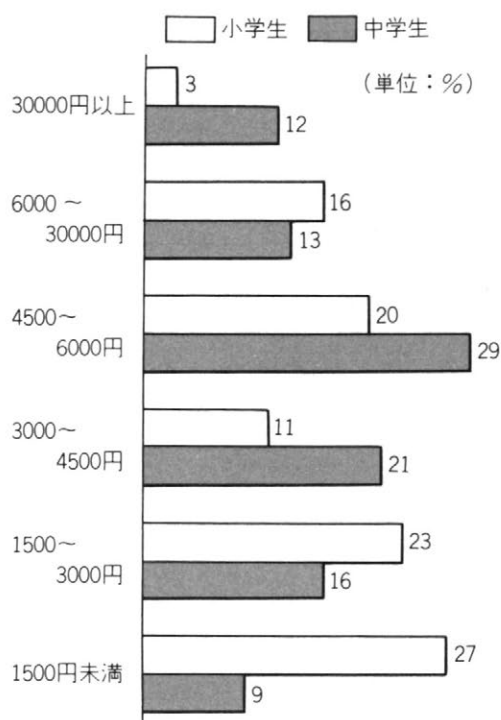


表6 小学生の学年別比較(%)

	1500円未満	1500～3000円	3000～4500円	4500～6000円	6000円以上
1年	33	12	15	21	19
2年	28	26	3	17	26
3年	22	21	30	17	10
4年	23	18	13	21	25
5年	29	29	7	16	19
6年	24	23	13	21	19

(1) 小・中学生とも大部分が6000円未満

小・中学生を比較してみると、金額によるピークは小学校で1500円未満、中学校で4500円～6000円と違いが認められるが、6000円を限度として大部分が包含されている。中には数万円も家庭学習の教材費にあてる家庭も見られるが、これらはむしろ例外的と言えそうである。ともあれ、7割以上の小・中学生が年間6000円の範囲内で教材を購入しており、月額にすると500円未満である。

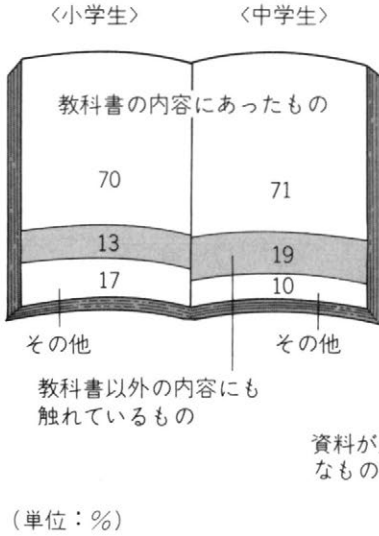
(2) 小学生では3000円未満が約半数

小学生では、教材費3000円以内が60%と過半数を占めている。4500～6000円と中学生並みの小学生も20%と多数だが、これは月刊の家庭学習用教材を利用していると考えられる。学年別の表に見るように、学年別でも傾向は全体と同じで、学年差より家庭による差といえる。

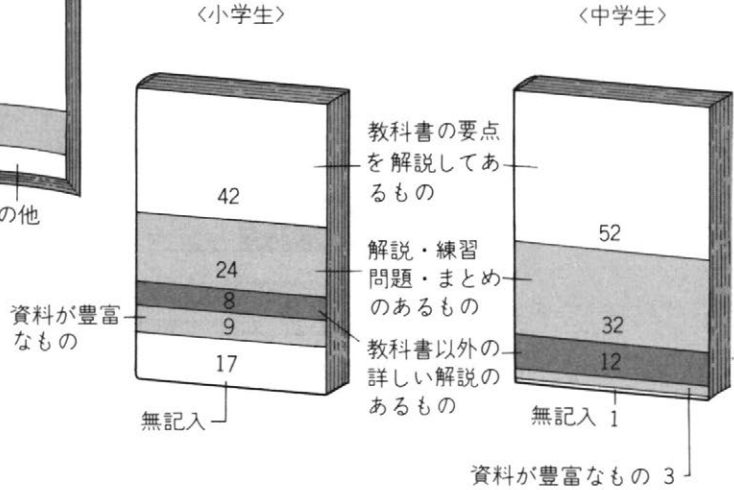
(3) 中学生は家庭学習用の教材費だけで年間6000円

中学生では、4500円～6000円をピークに山型のカーブを描いている。ただ、中学生の場合、塾や進学教室に通う生徒もかなり多いことを考えると、父兄の負担は軽いいとはいえない。年間30,000円以上もの教材費を出している12%の家庭の中には塾の費用との混同もみられる。

問23 図23 どんな参考書を選ぶか



問23 図24 どんな問題集を選ぶか



(1) 教科書の内容に合った参考書, 問題集

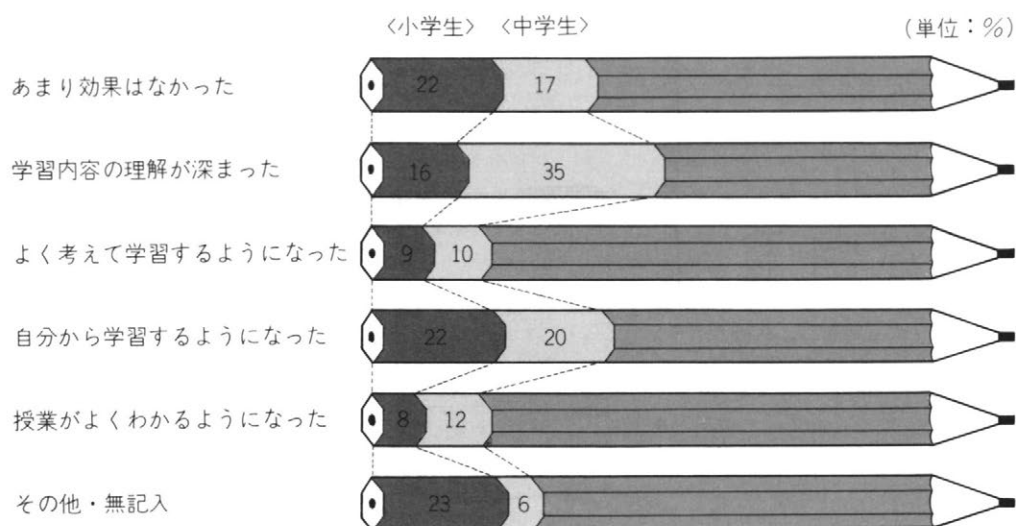
「家庭学習に使用する教材として」の参考書及び問題集について、小学生をもつ親も中学生をもつ親も共に、教科書の内容に合った教材を選ぶという答が多い。この傾向は、家庭学習を学校における授業と関連させ、授業時の学習効果を高めたいと願っている表れであるといえる。図24のように問題集は、参考書と比べ、日常の学校における学習内容に即したものを選ぶ傾向が極めて強い。問題集としてのいくつかの特質の中でも、学校で学習した内容を反復練習し、定着させるための教材としてのとらえ方が強いことを示している。

(2) 教材の編集は、学期別か学年別か

教材の編集の仕方に対して、教科別、学期別に編集されているものを選ぶとした小学生の親は41%、中学生の親は26%、また教科別で学年別を選ぶとした小学生の親30%、それに対して中学生の親は58%という結果である。

7～8割の親が教材は教科別に編集されているものを選ぶという傾向にある。学期別か学年別かでは、小・中学生の親の考えははっきり分かれている。小・中学校における学習の内容・量等とも関連があると考えられるが、小学生の親の多くが学期別の教材を望むことの一つに、小学生という段階では子ども自身で手軽に学習がまとめられるからという考えがあるからだと思われる。

問24 図25 教材を使用してどんな効果があったか

**(1) 教材の効果は認められる**

「家庭学習で教材を使用してどんな効果があったか」については、小学生をもつ親では55%が効果ありとし、中学生をもつ親は77%が教材を使用しての効果は認められると答えている。この結果から家庭学習においては、参考書や問題集を自主的に使用することによって、半数以上の家庭で自ら学ぶ姿勢が身についていくという好結果を感じている。特に、小・中学生ともに「自主的な学習態度」と「理解の深まり」について効果を認めていることが注目される。

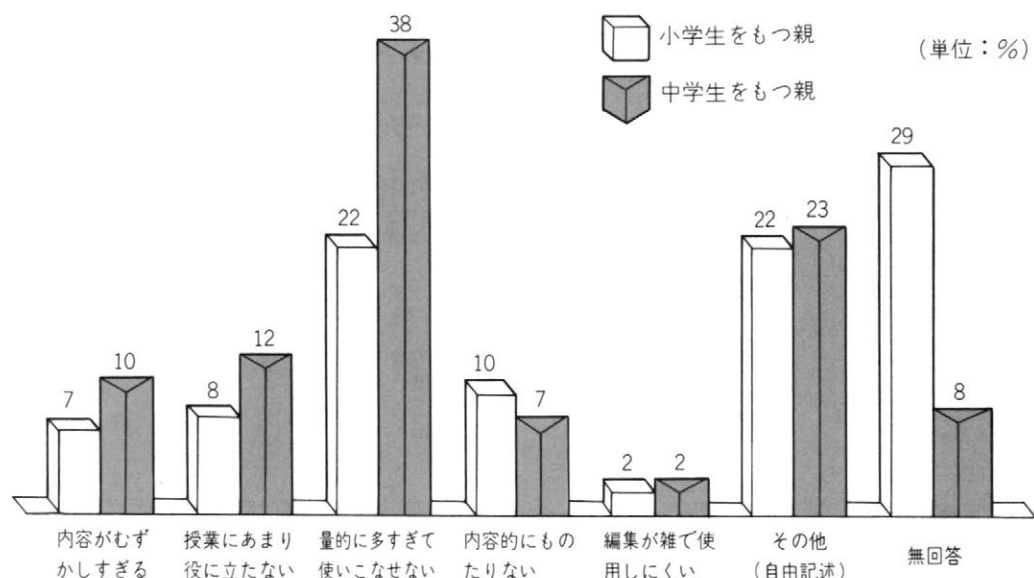
(2) 小学生では「自分から学習するようになった」

小学生をもつ家庭では、教材を家庭学習の際に使用することによって、学習することへの興味・関心が高まり、自ら学習する態度が身についてきたことを一番にあげている。反面、教材を使用したがあまり効果はなかったと答えた家庭が22%に及んでいる。このことは、授業における学習の仕方と家庭学習とでは大きな違いがあり、個人学習の方法がよくわからないためと考えられる。

(3) 中学生では「学習内容の理解が深まった」

中学生をもつ家庭では、効果ありと認めた中で、「学習内容の理解が深まった」と答えた親が一番多く35%に達している。小学校時代からの学習方法の試行錯誤から、教材の有効な使い方が身についてきているとする家庭が多く見られる。

問25 図26 家庭学習における教材の問題点は何か



(1) 教材選びの難しさ

家庭学習で使用する教材としての参考書や問題集は、小学生用・中学生用とも極めて多種にわたって出版されている。その中から自分に合った教材を選び出すのは至難の技である。どうしてもそこには問題点が見出されてくるものと思われる。

調査用紙では、5項目の予想される問題点をあげ、その他を自由記述にした。結果は、小・中学生の親ともに、「その他」が高い率を示しているが、そのほとんどが「特に問題はない」という回答である。また、「無回答」も特に小学生の親については29%という高率である。これらを考え合わせると、「教材の問題点すら明確につかめていない」という実態に、改めて教材選びの難しさを考えさせられる。

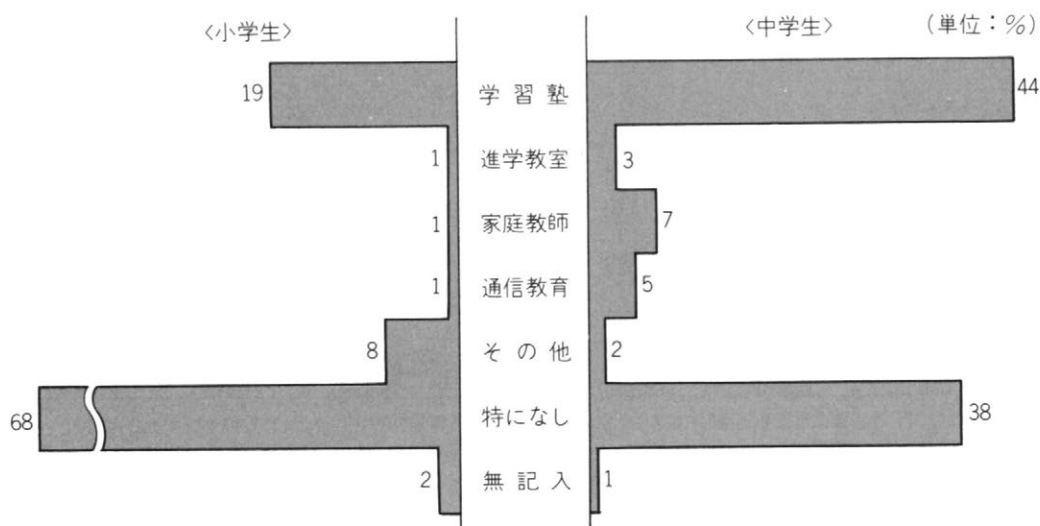
(2) 圧倒的に高い「量的に多すぎて使いこなせない」

調査用紙であげた5項目のうちでは、「量的に多すぎて使いこなせない」と答えた親は、小学生をもつ家庭では22%、中学生をもつ家庭では38%と他の項目を大きく上回っている。

家庭学習に費やす時間として、小学生では80%が1時間以内であり、中学生でも75%が2時間以内であることを考え合わせると、この時間内に学校の宿題も消化しなくてはならないため復習や自主学習として使用する教材の内容が多すぎれば多すぎるほど使いこなせないことになり、あせりなどのマイナスの効果も考えられる。内容が豊富な教材を選ぶ際には、これらの点を十分に考慮しておくことが必要であろう。

5 学習塾の利用

問26 図27 学習塾などで教わっているか



(1) 学習塾に通っている小学生は意外に少ない

小学生の30%が学校で学ぶ以外に他の先生に学んでいる。これは、学年別の集計でも同様の結果である。残りの70%の小学生は「特になし」となっており、殆んどの子どもは塾などの学習はしていないことがわかる。この結果からみると、本調査では教育ママゴンなどの流行語のような押しつけ教育はあまり行われていないことがわかる。

(2) 中学生は60%、何らかの学習で学校以外の先生に教わっている

中学生は、塾へ通う子が44%、その他の先生に教わる子が17%ある。これは全体の60%にあたる。これは高校入試をひかえていることと、学習が難しくなってきた、必要にせまられていることの表れであろうが、半数以上の生徒が学校以外の場所でも学んでいることは、学校教育への不満と受け取ることもできる。

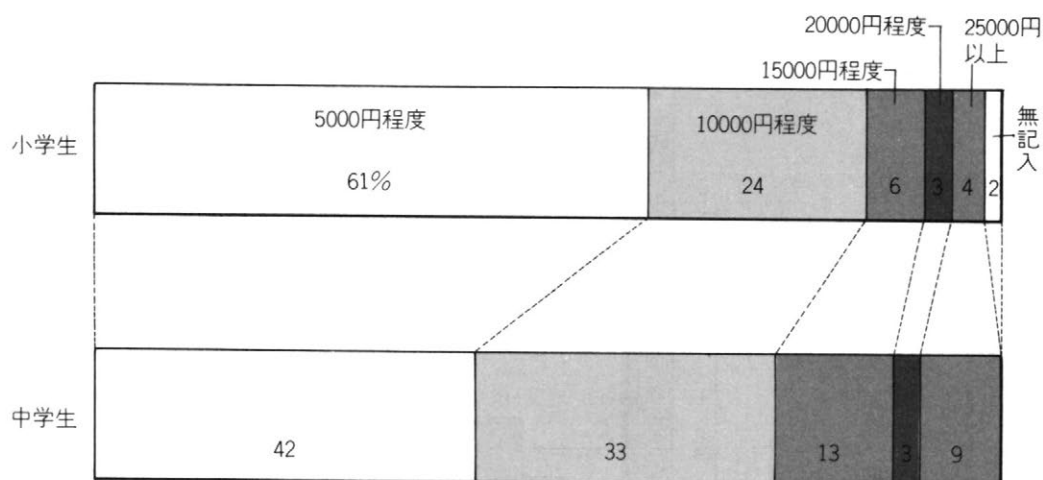
(3) 年齢とともに学校以外で学習をする子どもの割合が増加する

小学生の30%が塾などで学び中学生では60%となって、年齢と共に学校以外のところでも教わる子どもが増えている。

このことは、問1における家庭学習に対する親の意識の回答とほぼ一致している。(小学生の親の回答は「ある程度必要」、中学生の親の回答は「とても必要」となっている)

また、こうした実態は親の経済的負担など様々な問題も含んでいる。

問27 図28 学習塾などの費用(1か月平均)



(1) 小学生は毎月5,000円ぐらの塾費用を支出

通塾している子どものうちの61%の家庭は約5,000円の出費をしている。また10,000円ぐらゐの出費をしている家庭は24%である。小学生を塾などへ通わせている家庭の支出は月額1万円以下とみてよい。しかし中には、小学生時代から月々30,000円以上の支出をしている家庭が3%あることは見逃せない。

(2) 中学生も10,000円以下が75%

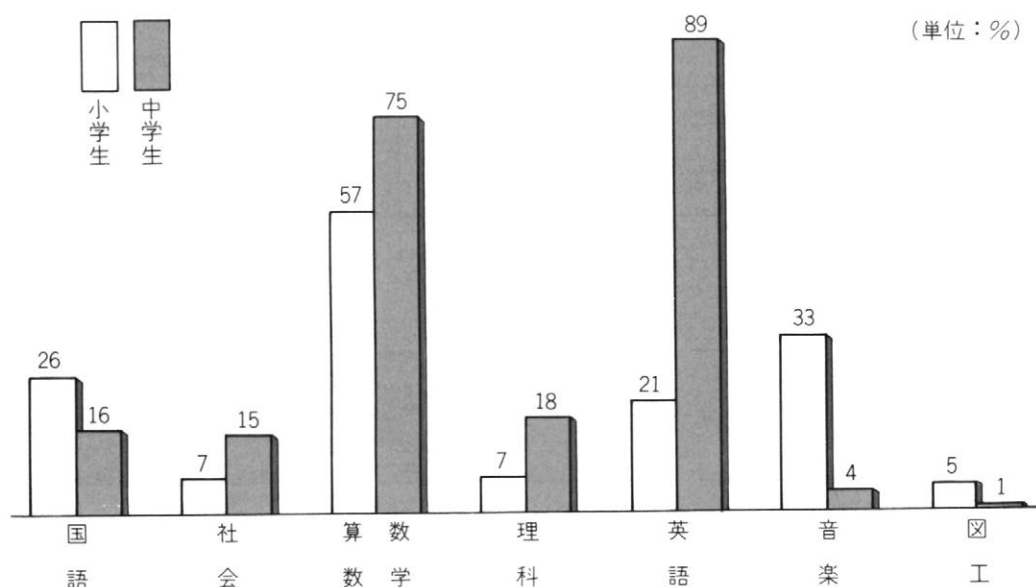
中学生になると出費の額は、5,000円が42%、10,000円は33%、15,000円が13%と小学生よりいくらかアップしている。しかし、10,000円以下が75%を占めていて、殆んどの家庭では10,000円前後の出費である。また小学生で月額30,000円は3%あったのに対して、中学生では7%にしか増えていない。

(3) 塾などの親の負担には限度がある

問26でもわかるように、年齢と共に通塾する子どもの数が増えている。このことは特別にゆとりのある家庭の子女もそうでない子も通塾していることを示している。

子どもの年齢が高くなるほど、通塾する子どもがふえているために中学生を持った親は、教育費の負担を迫られる。この調査結果は、塾などの費用の親の負担は1万円前後が限度であることを示している。

問28 図29 どんな教科を教えてもらっているか



(1) 小学生では算数の補習を受けるものがトップである

基礎学力の中には読む、書く、計算するなどの能力があげられるが、親は、小学生のうちに算数の力をつけることを特に重視していることがこの調査でわかる。中学へ行ってからの学力を心配しているのか21%が英語を学んでいるのは興味深い。

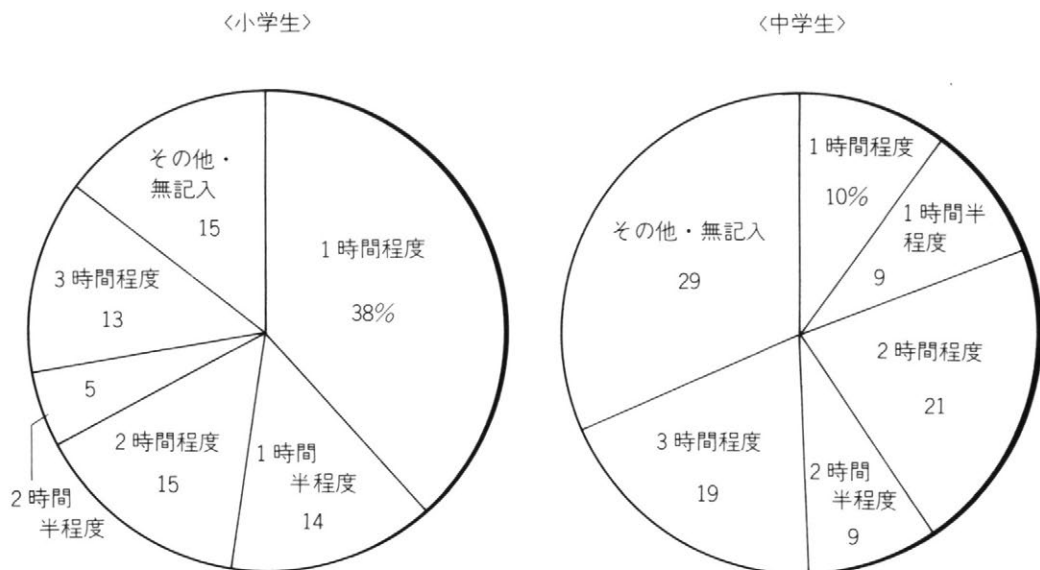
(2) 中学生の通塾は英語、数学が中心である

英語は約90%、数学は75%と中学生の悩みがそのままこの教科に表れている。また、英語と数学は反復練習して体得し、基礎学力を身につける教科だけにその学習時間も長時間を要求される。これは、問29の学習時間数の実態に表れている。

(3) 小学生には学習にゆとりがあるが中学生にはゆとりがない

小学生が学校外で学ぶものは、音楽や絵などが38%を占めるのに比べ、中学生になると、こうした情操教育面は5%を切っている。情操的なゆとりを身につけることや個性を伸ばす面での指導を受けるものが急に減少している。そのかわりに、入試にその点数の開きが歴然と表れるといわれる英語や数学にとり組もうとする。国語は入試の主要教科でありながら理科を下まわることも注目をひく。入試に効果的な教科を最優先に学習をさせようとする親の意識の表れともいえる。

問29 図30 1週間でどれぐらいの時間教えてもらうか



(1) 小学生は塾などで学ぶ時間は1週間で1時間が多い

小学生の塾での学習時間は1時間が38%、1時間半が14%、2時間が15%である。これは塾で学ぶ子全体の67%にあたる。小学生は毎週1時間～1時間半ぐらい教えてもらうのが適当であるとする親が多いことがわかる。通塾の習慣化により学習の生活化を図っているともいえる。一方その他の15%の中に週10～30分が11人、4時間6人、6、7、8時間が各1人あり、学習塾の多様化が見られる。

(2) 中学生は1週間で2時間以上塾などで教わっている

中学生では、2時間が21%、2時間半9%、3時間19%である。その他の29%も、4時間24人、5時間3人、6時間7人、7～10時間4人で、教えてもらう時間が非常に長くなっている。

(3) 小・中学生の差が歴然と表れている

小学生の塾では週の学習時間が10～30分などというものがあり(ドリルなどを1枚やって帰宅する)全体的にみて、「塾へ通う」と大げさに言っても、学習時間やその内容は少ないことがわかる。これは学習塾などへ行かない子が小学生全体の70%であったことから、通塾している子どもにも、さしそまった気持ちはなく、気楽な気持ちで通塾しているように読みとれる。

反対に中学生は、学習内容の難しさや、内容の多様さなどが大きな要因となって、学習時間が増大している。また問28の教科別学習状況の実態でもわかるように、入試準備の教科内容を身につけるためには、この塾での学習時間が必要であるということもわかる。

問30 図31 教えてもらった効果はどうか

	大変効果あり	まあまあ効果あり	効果なし	無記入
小学生の親	19%	69	11	1
中学生の親	21	62	16	1

(1) 学習塾などを効果があると考えている親が多い

学習塾などで教えてもらった効果については、図31からわかるように、小学生の親で88%、中学生の親で83%が効果があると答えている。このことから学習塾などで教えてもらう目的をほぼ達成していると考えられる。また反面、学校の勉強だけでは学習内容を理解できないと考えたり、理解するための時間が不足していると考えている親が多いことも示している。小学生の親で約11%、中学生の親で16%が効果なしと答えているが、これはよくできて学習塾などで教わる必要のない場合か、基本的なことがらが欠如しているために全くできないかの2つが考えられる。

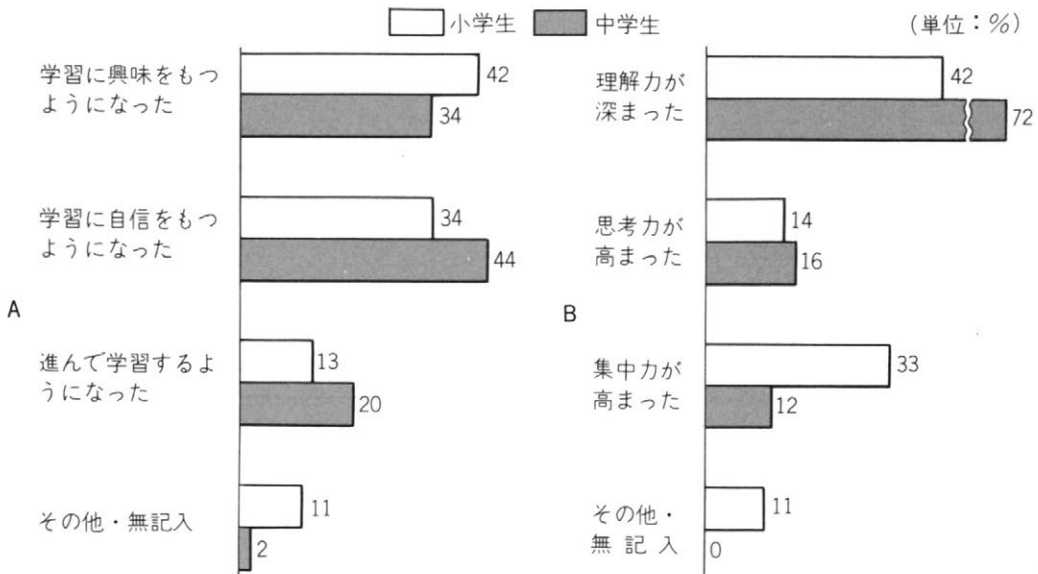
(2) 小学生では「効果あり」が大変多い

小学生をもつ親では、「大変効果がある」と答えた人が約19%、「まあまあ効果がある」と答えた人が約70%いる。大変効果があったのは、今まで理解できなくて欠けていたところが教わることで埋めることができ、学力・成績ともに向上したためと考えられる。まあまあ効果があったのは、学習にとりくむ態度や習慣ができてきたため、徐々にではあるが学力が向上していると考えられる。

(3) 中学生では「効果なし」も増加している

中学生をもつ親では「大変効果がある」が小学生の場合よりわずかに増加している。これは高校に進学するために一層の学力向上を目指している者にとって、効果があったと考えられる。「まあまあ効果がある」が減少し、小学生とくらべて「効果なし」がかなり増えている。これは、小学校低学年のころに身につけておかなければならない学習の基礎習慣がないため、教わったあとの反復練習をしないので学力向上につながっていないと考えられる。

問31 図32 教えてもらってどんな効果があったか



(1) 意欲的に学習するようになったと考えている親が多い

図のAは学習にとりくむ姿勢、Bは問題解決の能力を示しているが、多くの親は学習に興味や自信を持ち、理解力が増してきたと答えている。これは、学習塾などの指導や反復練習のために内容や問題の解き方がわかることが、興味や自信の基になっているといえる。しかし「思考力」「集中力」「進んで学習」などで、効果があったと考えている親はそれほど多くない。これらは学習をする本人自身が時間をかけて創造していく内容で、学習塾での指導が理解中心で行われていることがわかる。

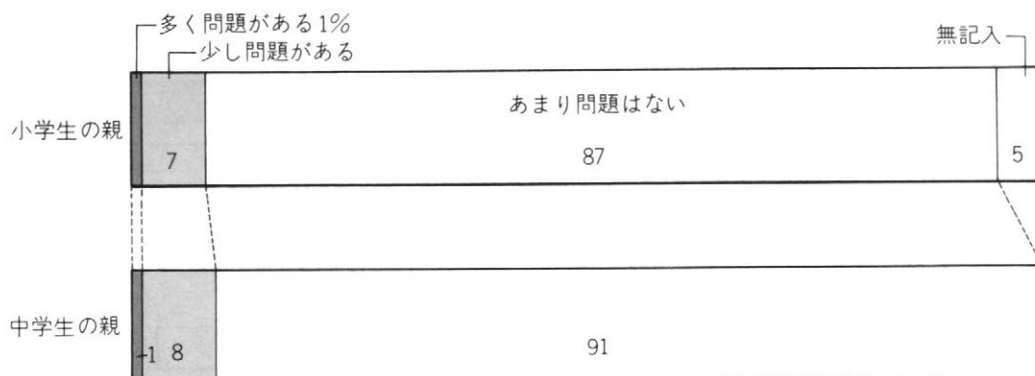
(2) 小学生では「学習に興味」が多い

小学生を持つ親では、「学習に興味をもつようになった」と答えた人が42%で最も多く、「学習に自信」も含めると全体的に意欲的に学習するようになったと考えている。しかし、「進んで学習」が13%と少なく、小学生では親などからいわれて学習することが多いことを示している。「集中力がついた」が約33%もいるが、これも発達段階からくる従順さと無関係ではない。

(3) 中学生では、「理解力が深まった」が圧倒的に多い

中学生を持つ親では、理解力が深まったと答えた人が72%もいて圧倒的に多くなっている。これは、そろそろ中学生で表れてくる思考力・集中力をあげた人が比較的少ないことから単に問題の解き方をおぼえただけではないかと考えられる。しかし、問題が解けるようになったことが、学習に自信をもつことにつながっているといえる。

問32 図33 教えてもらった結果、問題点は生じているか



(1) 問題は生じていないと考える親が圧倒的である

「教えてもらった結果、問題点は生じているか」の問32では、図33からわかるように、小学生の親で約87%、中学生の親で約91%の圧倒的多数があまり問題がないと答えている。このことから、小・中学生の大多数は教わることを前提において生活していることがわかる。しかし、小学生で約8%、中学生で9%が多少なりとも問題を感じている。考えられる問題点としては、教える立場の者と教わる小・中学生の間におこる感情的対立や教わる場所への往復の途中に起きることなどが考えられる。

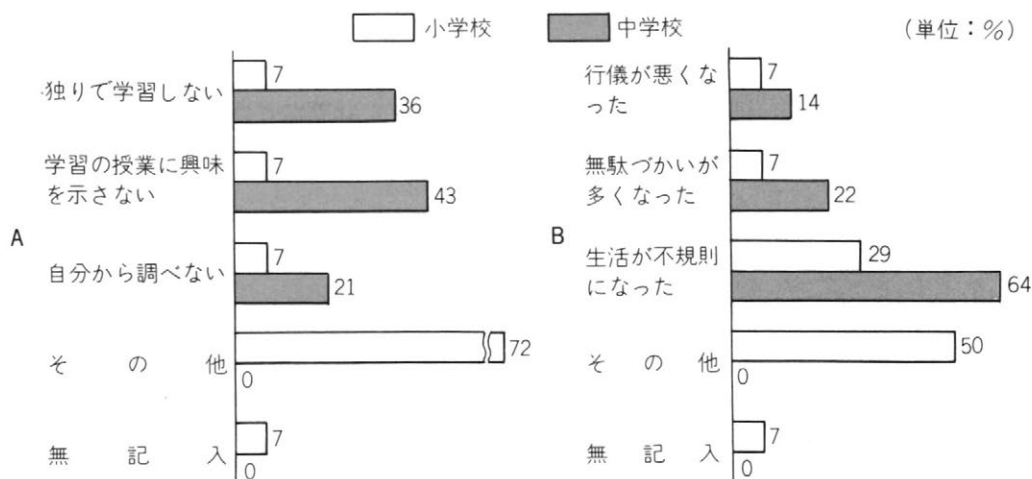
(2) 小学生では「問題なし」が多い

小学生をもつ親では、学習塾などで教わっていてもいろいろな面で問題は生じていないと考えている人が圧倒的に多い。これは、小学生の段階では、親の指示や教える立場の者からの指示に素直に従うことが多いためと考えられる。しかし、小学生でも問題傾向を示す者が約8%いることがわかる。発達段階から問題傾向が表れるのは低学年ではなく、5・6年などの高学年であると考えられる。

(3) 中学生では「問題あり」が多くなっている

中学生をもつ親では、あまり問題はないと考えている人が約91%もいて圧倒的に多くなっている。これは中学生の段階では高校入試が前提となつて教わることが多いので、真剣に学習していると考えられる。しかし、小学生の親にくらべると問題があると考える人がふえている。これは、小学生のうちは直感で問題が解けたものが、内容が高度になったために学習内容が理解できなくなったためと考えられる。また、本人にはあまり学習意欲がないのに、親が強制するということによって生じる問題もあるのではないかと考えられる。

問33 図34 どんな問題点があったか



(1) 生活が乱れてきたと考えている親が多い

図34からわかるように、中学生のほうにより問題が生じていることがわかる。学習に意欲的でない者が問題を生じやすいのではないかと考えられる。また、自分から積極的に問題の解決に努力を示さず、他人の力に頼ることが多いという現代の小・中学生の意識がうかがえる。小学生をもつ親では、その他と答えた人が多いが、その内容は不明である。

(2) 小学生の親では、「生活が不規則になった」が多い

小学生の親では、その他と答えた人を除くと、「生活が不規則になった」と答えた人が約30%もいて圧倒的に多い。これは学習塾で学習する時間がふだんの生活時間にくい込むことに原因があると考えられる。また、比較的問題が生じていないのは、問題行動となる意識はもっていても、親や教える人達の指示をきいて行動するために問題が表面化していないためであろう。

(3) 中学生では、いろいろな問題点を考えている親が多い

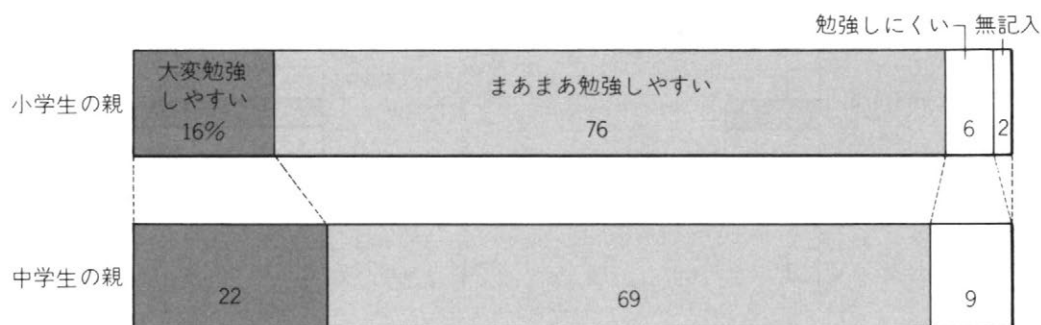
図からわかるように、中学生をもつ親では、いろいろな問題点を指摘している親が多い。問題解決を他人に頼ることが多いという現代の中学生意識のほかに、次の点が考えられる。

- ① 自分の学習習慣が確立できないうちに、問題の解答だけを教わる習慣をつけてしまった。
- ② 学校の授業をきかなくても、もう一回学習塾などで教えてもらえるという気持ちがある。
- ③ 学習塾などで高いレベルのものを教わったので、学校の授業がつまらなくなった。

また、生活行動面でも問題点を指摘する人が多いが、これらも学習塾などでは通知表の成績に関係しないことや、往復の途中の飲食などが原因になっていると考えられる。小学生の高学年から中学生にかけてはこれらの点について十分な注意・指導が重要であることを示している。

6 家庭環境など

問34 図35 子ども部屋は勉強しやすい状態かどうか



(1) 勉強しやすい環境づくりに努めている

子どもの部屋の環境については、「まあまあ勉強しやすい」「大変勉強しやすい」の二つを合わせると、小学生の親で92%、中学生の親で91%とほとんどの親が子ども部屋の状態については自信を持っている。また、「大変勉強しやすい」と答えている親が小学校で15.5%、中学校で22.4%にものぼり、小学生、中学生を持つ親は、勉強しやすい学習環境づくりに努めているとみることができる。

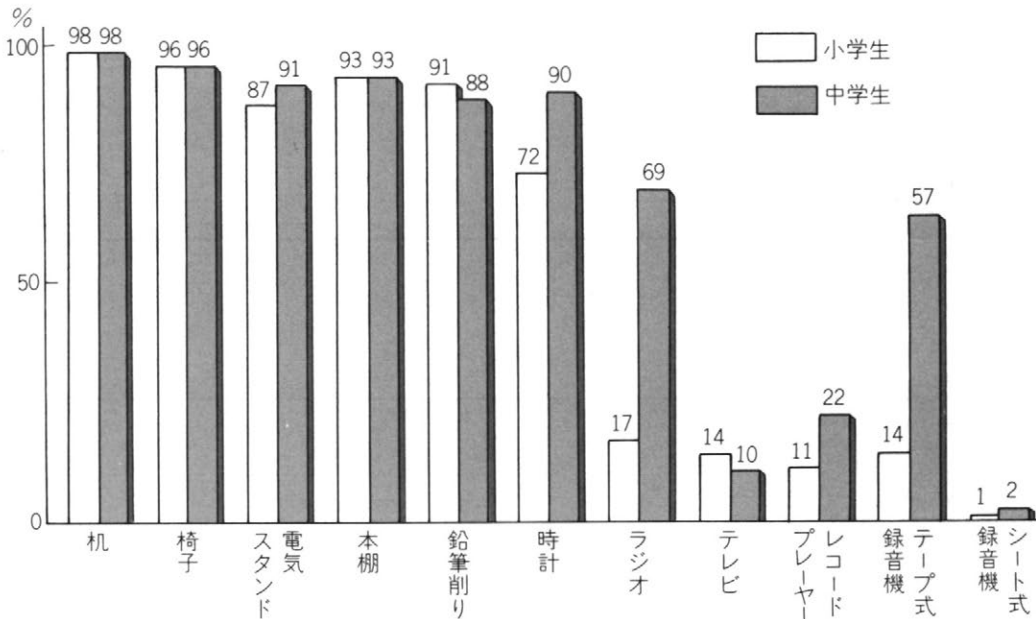
(2) 「勉強しにくい状態」の家庭について

小学生を持つ親の6.3%、中学生を持つ親の8.8%が、「子ども部屋は勉強しにくい状態」と考えている。このことは、子どもひとりひとりに一つの独立した部屋が与えにくいなどの住宅事情もあるが、小・中学生を持つ親が現在の状態に完全に満足していないか、または、さらによりよい状態にしてやりたいと考えていることを示しているといえる。

(3) 「無回答」について

中学生の親は全員この設問に回答しているのに対し、小学生の親には1.8%の無回答がある。勉強は塾や学校でやるものだから、家庭での学習環境は関係ないと考えているのだろうか。非常にわずかな数ではあっても気にかかる場所である。他方、中学生を持つ親は、進学の問題もあり、学習を学校と家庭の両方で充実させようという意欲を感じとることができる。

問35 図36 勉強する部屋には何が備えられているか

**(1) 学習の必需品はほとんどの家庭で整えている**

小学校入学時に机と椅子を買い与える家庭が多いのだろうか、小学校低学年からほとんどの子どもの学習する部屋に机とその付属物はそろっている。設問はそれぞれの子どもの所有物かどうかには言及していないが、おそらく皆自分の学習机であろう。本棚についても、大きさや形に差はあれ、小・中学生共に93%と一応はそろっているとみられる。

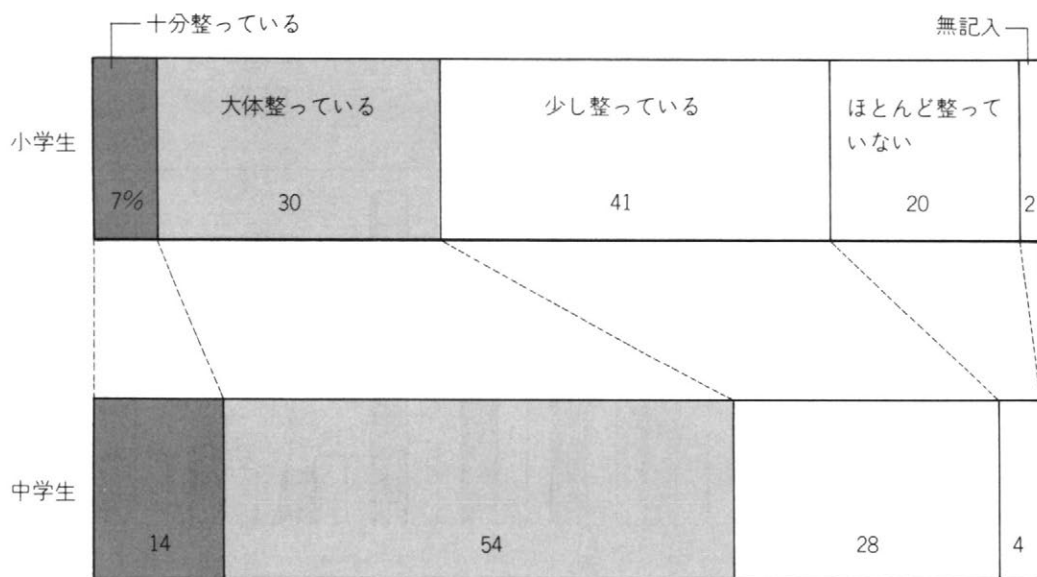
(2) ラジオ・テレビは「ながら学習」につながるのでは

時計についても小学校で72.3%、中学校で90.4%が部屋に時計を持っている。最近では、時計とラジオがいっしょになった機器が多く普及しているようだが、そのラジオは中学生の勉強する部屋の実に69.2%に置いてある。また、テープ式録音機も小学校14.3%、中学校57.3%と、特に中学校では予想外に高い数字が現れたが、こうした視聴覚機器は、指導者のいない家庭学習においていわゆる「ながら学習」につながることも心配され、今後活用上の問題が残る。

(3) その他のものについて

グラフ内の器具の他に勉強する部屋にあるものを任意に挙げてもらったところ、ピアノ・オルガンなどの楽器の他、ベッドという回答が多くあり、このことは子どもが独立した一部屋を与えられていることを示している。中学生にひとりだがパソコンという回答があり、今後こうした機器を備える傾向もうかがえる。

問36 図37 学習に必要な参考書類は勉強部屋に整っているか



(1) 小学生では学年が進むにつれ、参考書への関心が高くなる

小学生を全体的にみると、「少し整っている」「大体整っている」とする親が、合わせて71%と圧倒的に多い。学年別にみてもこの傾向は変わらないが、学年が進むにつれてこの2つの数字が上がり、「ほとんど整っていない」の数字が下がっている。このことは、小学校低学年では参考書に無関心だった親も、学年が上がるにつれ教科書以外の参考書を整える必要を感じていくことを示している。

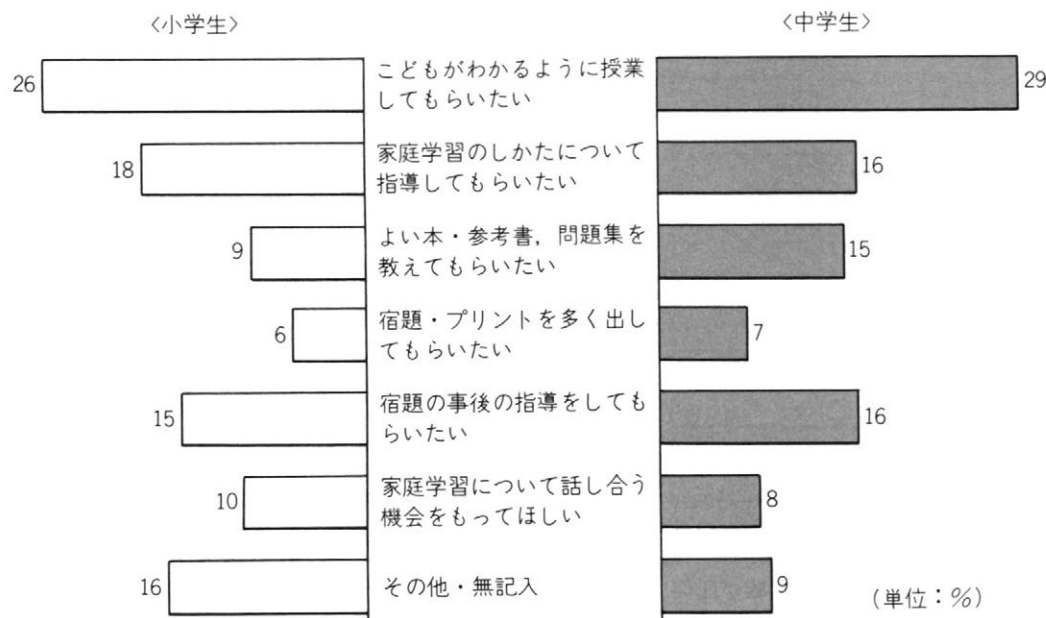
(2) 中学生では参考書を整えるのは常識である

中学生では「十分…」と「大体…」を合わせて7割を占めている。中学生ともなれば、参考書類を整えるのは常識ということなのだろうか。そのわりには、「ほとんど整っていない」の4%は意外に高い数字だといえる。なお中学生をもつ親では無回答がなく、家庭学習に寄せる関心が高いことを示している。

(3) 中学生では参考書の重要さがグンと高くなる

小学生と中学生の結果を比較してみると、いずれも「大体…」「少し…」を中心としながらも、小学生では、「少し」から「ほとんど整っていない」が数字が高く、中学生では「大体…」から「十分…」の方に比重がかかっている。小学生の教科書中心主義から、年齢を追うごとに参考書・問題集の重要性を感じている親の心理を物語っている。

問37 図38 家庭学習をすすめる上での学校への要望



(1) 「わかる授業」を要望する親

図38にみるように、家庭学習をすすめる上で「できるだけわかる授業をしてほしい」と答えている親が小学生で26%、中学生で29%と最も多い。この傾向は、小学校低学年、中学生で特に強いようである。このことから、小・中学生をもつ親は子どもの家庭学習をすすめる基盤は「わかる授業」をしてもらうことと考えているといえる。

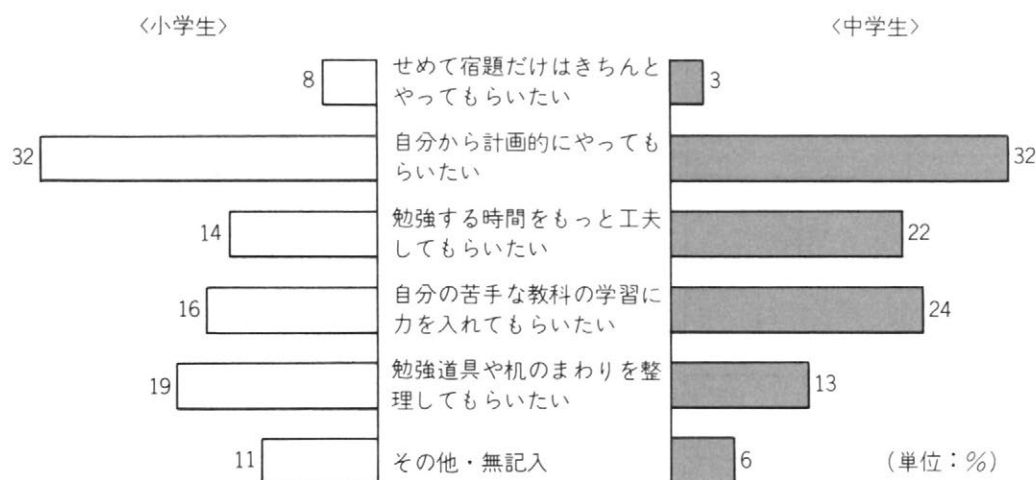
(2) 小学生では教師の細かい指導を期待

小学生をもつ親では、「わかる授業」と答えた親は26%、「家庭学習のしかたについての指導」を望む親が18%、「宿題の事後指導」を望む親が15%である。これから考えると、家庭学習をすすめる上でも、60%近い親が教師のきめ細かい指導と配慮を期待し、子どもが家庭学習のパターンを身につけるように望んでいるといえよう。

(3) 中学生では「本や参考書の指導」を期待

中学生をもつ親でも、傾向としては小学生をもつ親とかわらない。その中で、小学生と比べて、「本や参考書の指導」を望む親が15%と増えていることが目立つ。中学生では教科内容が難しくなる上に、受験を控えて子ども自身のとり組みが必要である。さらに、学習内容自体に親が関与できる段階ではなくなっていることもあって、参考書や問題集の選択が重要な課題であり、関心が高くなっていると考えられる。

問38 図39 家庭学習で子どもに望むこと



(1) 計画的な学習を望む親が圧倒的

家庭学習での子どもへの要望については、小・中学生共に32%の親が「自分から計画的にやってもらいたい」と答えている。このことからみると、小・中学生をもつ親は、子どもが自主的・計画的に家庭学習を進めることを重視しているといえる。今日の子どもたちは、学習内容を予想して計画的に取り組む姿勢に欠けている。内容の重要度やかかる時間などの見当をつけ、その予想をもとに学習することは、学習を計画的・効果的に進めることにつながる。親がこうしたことに着目するとき、子どもの前向きの学習活動が期待できるように思われる。

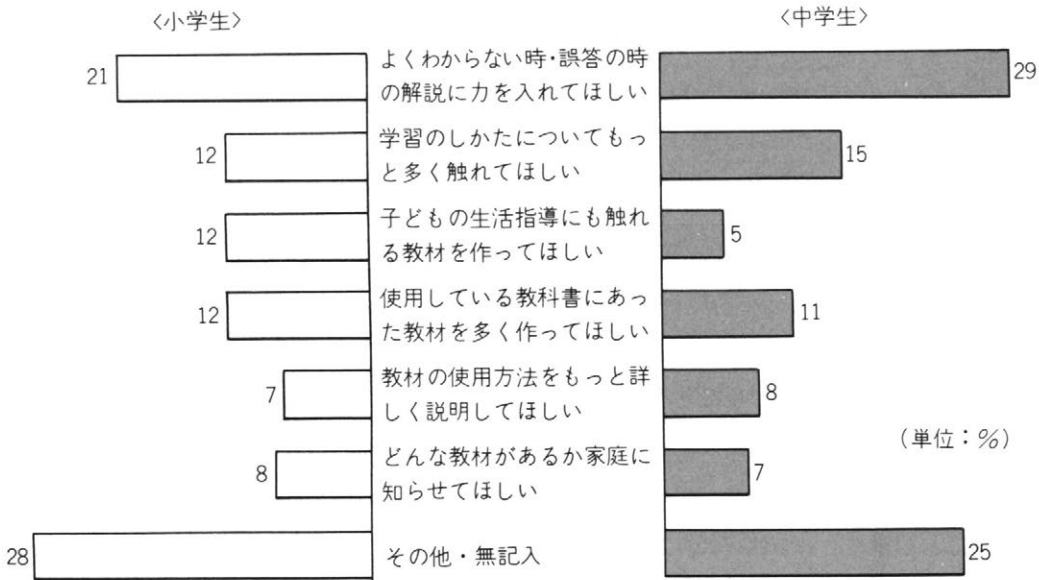
(2) 小学生では整理整頓が多い

小学生をもつ親では、「自ら計画的に」と答えた親が32%、次いで「勉強道具や机のまわりを整理する」と答えた親が19%ある。このことから、よい学習の習慣を身につけることと合わせて、よい生活の習慣も身につけることへの関心が高いことがうかがえる。両者は常に表裏の関係にあり、相互に影響しあうことから当然といえよう。

(3) 中学生では苦手な教科の克服が増加

中学生をもつ親では、「自分から計画的に」と答えた親が32%で、「苦手な教科の学習」と答えた親が24%である。高校入試の受験期を迎える中学生をもつ親にとっては、教科の学習成績にかかわることに、最も関心が高いようである。しかし、「勉強する時間をもっと工夫して」と答えた親も22%いる。このことは、家庭学習の内容や時間、あるいは学習の方法等について、無理がなく、より効果的な学習のあり方を願っていることの表れであろう。

問39 図40 家庭学習用教材に対する要望



(1) 誤答の解説教材を重視している親

教材に対する要望については、「わからない時、誤答の時の解説に力を入れてほしい」という答えが、小学生の親で21%、中学生の親で29%で最も多い。中学生で特に増加しているのは、親が学習内容に立ち入ることのできる小学生よりも、子ども自身の自主的な取り組みが必要だからであろう。

家庭学習はあくまでも自発的なものであり、学習に立ち向う厳しさや自分の力でやり直す意欲を培うことが重要である。やり直す際は前と同じ方法はとらないが、その別の方法を取るための適切な手助けとしての解説教材を想定し、要望しているのだと思われる。

(2) 小学生では授業と関連した教材が求められている

小学生をもつ親では、「学習のしかたに多く触れる教材」、「教科書に合う教材」、「生活指導に触れる教材」を望むのがそれぞれ12%である。小学生の段階では、まず何よりも学校の授業に関連した家庭学習が行われていることの表れであろう。

(3) 中学生では自主的な学習を促す教材を要望

中学生をもつ親では、「誤答の時の解説教材」が29%、「学習のしかたに触れる教材」が15%で、合わせると44%と半数近い親が、自力で学習していくために手助けになる教材を要望している。このことは、自主的・主体的な学習を重視する親の考え方を示している。受験を控えて、着実に学習を積み上げるための補助教材が求められている。

III 調査の考察

はじめに

子どもの教育の場としては、学校教育・家庭教育・社会教育の三者があり、それぞれが受け持つ部分を果たすとともに相互に補完し合って、人格の完成と心身ともに健康な国民の育成をめざしている。

この中で学校は、一定の施設と教職員が意図的、計画的に教育活動を行うところとして、現代社会における教育の中心的役割を担っている。これに対して家庭教育は、特定の家族という閉鎖的な集団の中での教育で、組織性・計画性を欠いている。

しかし、組織性・計画性を欠くとはいえ、人間関係の学習、パーソナリティの形成、基本的な生活習慣の形成などについては、大きな教育の場であることはいうまでもない。家庭での教育にも、子どもがやがて所属する社会集団に適應できるためには、程度や深まりに差はあるとしても意図的なものが期待される。とくに、食事・排泄・睡眠・着衣・清潔にかかわる基本的な生活習慣の形成が重要である。それは、乳児期・幼児期に形成されるが、その多くは「習慣づけ」を大きなねらいとして行われるものである。食事についての約束ごとの習慣づけ、ひとり寝ができる習慣づけなど、例は多い。

本調査の家庭学習も、この「習慣づけ」という面からみた親の願いと考え方が背景の一つになっていることがうかがえる。

1 家庭学習についての考え方

(1) 重視される家庭教育

家庭学習の必要性についての問いかけに対して、「必要ない」と答える親はほとんどいないことは予想されたが、「とっても必要」と「ある程度必要」との答え方の差は読みとりにくい。しかし、必要だとした内容を見ると、「毎日机に向かってほしい」という学習の習慣づけへの願いが大きなウェイトを占めていることがわかる。

また、家庭学習の目的については、学校での学習内容をよりよく理解し、基礎学力が身につくために、また、学校での学習にとまどわず、つまずかずについていけるよう、さらに、授業に役立つ、成績を向上させるなど、家庭学習を学校の学習と一体のものとしてとらえているといえる。自由研究のように個々の特性と能力に応じて長所を伸ばしていくことより、学校の学

習を支える意味から家庭学習を必要としていると解される。

(2) 宿題と練習中心の家庭学習

家庭学習のタイプとして、小・中学生とも宿題中心をあげたものが多く、復習中心をも含めると両者とも60%以上の高率である。また、力を入れるものとしては練習中心が多いが、中学生では記憶中心としたものが目立つ。このように、家庭学習のタイプを大別すると、思考中心は低く、宿題中心で練習と記憶中心が主体になっていることがわかる。これは、教師の出す宿題が学習の定着を図るねらいからドリル的なものになりやすい面をもっていることによる。また、次の時間までに覚えてくることを宿題として課すこともあるだろう。

親からみれば、机の前にすわらざるを得ないような宿題を適量出してくれるのが良い先生という感覚があるともいえる。教師が授業との関連で出している以上、親が家庭学習を授業と結びつけるのは当然である。

帰宅した子どもに「きょうは宿題あるの」「宿題あるんでしょ、早くやっしまいなさい」という親の姿勢が日常的になっているのは、こうした事情によるものである。その際の親の行動を回答でみると、小学生では「相談相手になる」という親が多いのに対して、中学生の親では「学習の雰囲気づくりに留意している」という率が高い。これは、学習内容の程度と親の口出しの度合いがかかわっていると思われる。ただ、「子どもの自由意志にまかせて干渉しない」と回答したものについては、なぜそうしているかの内容は読みとれない。

2 家庭学習の内容

(1) 算数・国語、英語・数学を重視

小学生の算数・国語、中学生の英語・数学が高率を示し、社会・理科は低率である。これについて、なぜ重視するかをみると、「重要な学力である」「多い学習内容に備える」など、授業の理解のためにと考えている。とりわけ中学生では、「学習しないと授業がわからなくなる」としたものが多く、英語・数学を難解な教科と受け取っていることがうかがえる。

宿題への取り組みについては、当然やるものとして義務的に受け取っている感が強い。その内容が子どもにとって比較的平易なものであることや、その量もテレビ視聴や遊びにそれほど影響をおよぼすものでないことが、そう感じさせているのかも知れない。教師の自作による宿題は授業との関連で出すので、量的な問題はあっても時間をかければできる。

ただし、この調査では、「時々忘れる」「ほとんどやらない」が低率ながら存在する。学習への関心と意欲に欠ける子どものいることは、学校現場の悩みとして指摘されている。

(2) 適量とされている宿題の量

学校の授業の延長上に家庭学習を考えている親からみれば、宿題はあって当然であるとの意

識がつよい。もし、教師から宿題が出なければ、なぜ出さないのかと詰問しかねないムードすらある。このとき、教師が家庭での自主学習を育てる意味から宿題を意図的に出さないのであると説明しても、親は容易に納得しないだろう。といて、その量が多ければ、「先生、うちの子は塾の宿題もあるんですよ。少しは加減してください」などと本末転倒の意見が寄せられることもおこる。したがって、子どもにとって負担になっていないと受け取られている限り、「適量である」と判断するのが現実的である。

こうしてみると、親も子どもも、「宿題をやるのが家庭学習」と考えている面があり、特に小学生の場合に多い感覚のようである。

この量的な問題は、宿題の程度を「ちょうどよい」と受け取る原因ともなっているようである。「ちょうどよい」の率が高いのは、それほど負担を感じさせず、日常の机に向かってほしいという願いを満足させるなどの条件を満たしていると考えてもよいと思われる。このことは、教師の出す宿題内容や程度が、授業内容を反復させることによって学力の向上と定着を図ったものであることを意味している。つまり、子どもが宿題を前にしてどうやったらよいのかと困る状態ではないのである。

中学生で「少しむずかしい」が目につくが、発達段階に応じて課題学習的なものが入りこんできていることや、学習内容が少しずつ高度になって家庭での手助けが得にくくなっているなどの事情を考え合わせるとうなづける。

(3) 宿題を母親にきく小学生と自分で調べる中学生

宿題をやるにあたって、小学生は母親に手助けを求める度合いが高いが、中学生では自分で調べるといふ者が多い。これは、宿題の内容や程度が母親の手に負えるかどうかという面からみることもできるが、生活のサイクルや意識の面からとらえることも必要と思われる。

中学生になると、部活動への参加による帰宅時間の遅れから、家人との接触時間が減少すること、自主的な学習への取り組みが始まることなどがあげられる。また、単に宿題をやるだけの家庭学習ではなく、予習・復習などにかかる時間が多くなることもその背景にある。その中には、受験に関する学習が含まれているであろうことは容易に想像できる。

3 家庭学習の方法

(1) 小学生の2～3倍の時間をかける中学生の家庭学習

中学生の家庭学習時間は1～2時間とするものが75%で、小学生の86%が1時間以内であるのに比べてずっと長い。しかし、中学生が小学生の2倍の時間をかけるからといて、その理由が単に学習が難しくなったからというだけではないと思われる。教科担任制の中学校では、各教科間で宿題を調整し合うことはほとんどない。また、他教科がすでに宿題を出しているこ

とを知ったとしても、自分の教科の宿題を見合わせることもない。こうした事情も中学生の家庭学習時間を長くしている。

家庭学習を行う時間帯をみると、小学生が「帰宅後すぐ」や「夕食の前後」に分散しているのに対して、中学生は「夕食後」が多い。これは、中学生の生活のサイクルが小学生と異なることを考えれば当然の姿といえる。学習塾へ通う中学生の中には、学習塾から帰宅したあと夕食をとり家庭学習に入る者もいる。これが9時・10時すぎに学習すると答えた中に入っているものと思われる。

学習への取り組みの態度をみると、「のんびりした気持でやっている」が「意欲的にやっている」を大きく上回っているが、宿題だけをこなす場合と宿題以外のものに範囲をひろげる場合とで親の目に映る度合いが違うのではないだろうか。

(2) 教科書が主役の家庭学習

家庭学習の方法については、小・中学生とも「教科書を使って」が多い。これも家庭学習が学校の学習に強く結びついていることを示している。「問題集や参考書を使って」は少ないが、中学生では増えている。

家庭学習の効果については、「授業理解」・「問題解決能力の向上」・「途中で投げ出さずにがんばりぬく力」など、よい面が表れたことを指摘している。これは、やればそれなりの効果があるものと考えていることと、親が願っている「学習の習慣づけ」「学力の向上」に大きく役立ったことを示しており、この意味では親の期待は実っている。

4 教材の使用

(1) 多種類の学習教材

家庭学習では、教科書に準拠した教材が大きな役割を果たしている。書店には教材コーナーも設けられ、教科書の地区別採択状況を記したパネルが掲示されている。そこでは、子どもの使っている教科書を見たこともない親でも、市区町村別の使用教科書がわかり、その教科書に準拠した教材を買い求めることができる。この“教科書準拠”の表現は、教材の出版社にとって、編集上も営業上も大きなポイントになっているのが現状である。ワーク類では問題に使った図版やグラフを教科書のそれとほぼ同じものにして、子どもがとまどわずに取り組めるよう配慮している。

教材費としては、年間6000円までの範囲に大部分が包含されるが、それは月額500円未満にあたり、月刊の学習雑誌に見合う額でもある。

また、特殊な例でもあろうが、親の中には教師用に編集された教科書を書店に注文し、子どもの家庭学習に対応している場合もある。それには、練習問題・課題のまとめ方や解答、中学

生でいえば定期考査の問題例もあって、成績向上に直結する早道となっている面も否定できない。

5 学習塾の利用

(1) 中学生の過半数が塾通い

塾や家庭教師などの「学校以外の先生に学んでいる」という者が、小学生は30%であるのに対して、中学生では62%と高率である。この学校以外の先生に学ぶのは、授業の補充もあるが、学力の向上への期待と受験へのかかわりが深いといえる。

そこで学ぶ教科は、小学生が算数、中学生が英語と数学が中心になっているが、小学生の塾の中には音楽や絵画も含まれている。

塾での時間は、1週間で小学生が1～1時間半、中学生が2時間以上で単純にみれば1教科1時間といえる。

(2) 塾通いの問題点

学習塾に通うことによって生ずる問題があるかとの問いかけには、「ほとんどない」と答えている。しかし、夜間に通うこと。夕食時間のズレ、他校の生徒との交流、疲労などから問題が生じていることを指摘したものもあった。なかでも、「自分の学習習慣が確立できないうちに、問題の解答だけを教わる習慣を身につけてしまった」「学校の授業をきかなくても、塾などで教えてもらえるという気持ちになってしまった」「学習塾で教わったので学校の授業がつまらない」などは、「問題がない」と答えた家庭にも波及するおそれは強い。

また、塾の中には通ってくる中学生にそれぞれの学校の定期考査のプリントを提出させ、その解答指導を行うと同時に問題をコピーし保存するところもある。このコピーは学校別・教師別に整理され、次年度以降の塾生に対して、定期考査の傾向と対策の資料・教材に利用されるという。塾に子どもを通わせる親の期待を手早く満たす塾経営の一面を示す例である。

6 家庭環境

(1) 環境づくりにつとめる親

学習に関しての環境づくりに対して、親は勉強しやすさをめざして気を配り、「まあまあ勉強しやすい」「大変勉強しやすい」など、小学生で92%、中学生で91%の親がその成果に自信をもっている。

勉強する部屋に備えられているものとして、机・椅子・スタンドなど常識的なものがあげられているが、テープレコーダ・ラジオ・プレーヤーなどは中学生の部屋に多い。このような視聴覚機器が、ふだん指導者のいないところに置かれていることは、いわゆる“ながら学習”に

つながることや中学生にとって適当でない番組の視聴も心配される。子どもがほしがるものとそれに伴う心配ごとの関連については、この調査では読みとれない。

(2) わかる授業を要望する親

学校への要望として親が考えていることは、「わかる授業をしてほしい」ということが最も多い。それには、ただ○×をつけただけでなく、なぜこの答えになるのか、なぜ誤答になったのかなど、子どものつまずきを補正してくれることを望んでいる。これは日常の授業のありかたについて、こうあってほしいと願っている意味にもとれ、教師は自戒すべきことである。

また、「本や参考書の指導」を望む親もあり、教師が求められているものは広い範囲にわたっていることがわかる。

(3) 子どもには計画的な学習を望む親

「自分から計画的にやってほしい」とは、小・中学生の親ともども大きな願いである。自分からと計画的にの両方ができれば、ほとんどの心配ごとは消滅してしまうだけに重要なポイントといえる。そのほか、「苦手な教科の克服」や「身の整理整頓」を望む声も多いことは、子どもの親の願いに遠い姿を示している。

おわりに

かつて親たちは、子どもが一定の年齢に達するまで親として果たす役割を自覚し、親の働く姿を子どもに身近に見せながら、家事や家業を手伝わせたりして育ててきた。その中で人間形成のための家庭教育を行ってきたわけである。しかし、今日の家庭は人間形成の上に果たす役割を離れ、学校教育が果たしてきた機能を逆にとり入れているともいえる。

また、社会情勢の変化から、家庭を離れて働く母親がふえたこともその側面の一つになっている。母親の中には、習慣形成能力や育児技術が不十分でありながら、学校や塾、そして子どもに対する要求は高い人もいる。自分がまず何ができるかを自問自答してみる必要もあると思う。

マスコミと母親とのかかわりの場合でも、従前は親たちが情報の伝達者であったし、情報を親のフィルターにかけて選択的に子どもに与える役割を担っていた。しかし、今日のマスコミは親というフィルターを通さずに直接的に、大人も子どもも、農村も大都市も、A家もB家も均等に同質の情報を送り込んでいる。このこと自体はそれでよいのであるが、子どもにとっては発達に有用でないものも伝達され、非社会的な行動を誘発する可能性があることも指摘されている。調査の中にもあった勉強部屋にテレビ・ラジオがあるということの是非の論議も必要とされるわけである。

調査協力校一覧

小学校

		神奈川県	今泉小学校 逗子小学校 林間小学校
北海道	長万部小学校 幌西小学校 港小学校 桜が丘小学校	山梨県 静岡県 新潟県	敷島小学校 岡部小学校 春日新田小学校 一ノ木戸小学校
青森県	千刈小学校 五戸小学校	石川県	東陵小学校
秋田県	小坂小学校	富山県	八人町小学校
岩手県	高田小学校 山目小学校	福井県	朝日丘小学校 鳥羽小学校 社北小学校
山形県	東部小学校 上山小学校 朝陽第六小学校		武生南小学校 小浜小学校
福島県	福島第一小学校 高田小学校 湯本第一小学校	岐阜県	長良東小学校 国府小学校 養老小学校
茨城県	寺原小学校	長野県	辰野西小学校
栃木県	氏家小学校 小山第一小学校 黒磯小学校	愛知県 滋賀県	二子小学校 衣浦小学校 木之本小学校
千葉県	横芝小学校 船形小学校 興野小学校	京都府 奈良県	倉梯第二小学校 新庄小学校 斑鳩小学校
埼玉県	鴻巣東小学校	和歌山県	湯浅小学校

兵 庫 県	天満小学校
岡 山 県	美作第一小学校
広 島 県	長迫小学校
	神辺小学校
鳥 取 県	河原第一小学校
山 口 県	富田西小学校
	小郡小学校
徳 島 県	石川小学校
愛 媛 県	吉田小学校
高 知 県	甲浦小学校
	枝川小学校
福 岡 県	忠見小学校
佐 賀 県	新栄小学校
沖 縄 県	平良第一小学校

中 学 校

北 海 道	啓明中学校
岩 手 県	下小路中学校
秋 田 県	横手南中学校
山 形 県	酒田第二中学校
福 島 県	信陵中学校
茨 城 県	緑岡中学校
栃 木 県	山辺中学校
群 馬 県	前橋第一中学校
埼 玉 県	川越第一中学校
千 葉 県	船橋中学校
新 潟 県	長岡西中学校
富 山 県	高陵中学校
石 川 県	丸内中学校
福 井 県	明道中学校
山 梨 県	甲府南中学校
静 岡 県	末広中学校
三 重 県	橋南中学校
滋 賀 県	八幡中学校
京 都 府	下鴨中学校
大 阪 府	月州中学校
兵 庫 県	本山中学校
鳥 取 県	境港第二中学校
広 島 県	久保中学校
福 岡 県	歴木中学校
長 崎 県	早岐中学校

〈付録〉

家庭学習に関する調査

この調査は、それぞれの家庭における学習活動の実態及び方法上の問題点を明らかにして、これに対する学校教育と家庭教育の連携についての改善方法を探ろうとするものです。あなたの家庭の現状などについてお答えください。

昭和57年6月

財団法人 日本教材文化研究財団

回答についてのお願い

- ① この調査票は、設問1から設問39までとなっていますから、設問番号の順に答えてください。なお途中の注意書きを読んでから先に進んでください。
- ② 回答にあたっては、それぞれの設問の選択肢の中から、該当する項目を選んで答えてください。該当する項目がない場合は、「その他」の（ ）に内容を記入してください。
- ③ 設問によってはお子さんの意見を聞いた上で回答するようにしてください。

㊦該当する箇所に○印，数字，文字を記入してください。

- | | | | | |
|----------|------------------------|-----------|-------|----------|
| ○対象児童・生徒 | ・小学校（ ）年生， | ・中学校（ ）年生 | | |
| | ・男・女 | | | |
| ○回答者 | ・父親・母親 | 年齢（ ）歳 | | |
| ○回答者住所 | （ ）都・道・府・県（ ）郡・市（ ）町・村 | | | |
| ○回答者地域形態 | ・大都市 | ・中小都市 | ・町村 | |
| ○回答者地域環境 | ・住宅地区 | ・商業地区 | ・工業地区 | ・農林水産業地区 |

【1】あなたは家庭学習が必要だと思いますか。次の①～③の中から該当する項目を選んで番号を□に記入してください。

- ① とても必要だと思う。 ② ある程度は必要だと思う。 ③ 必要ではないと思う。

【2】①と②を選んだ人は、その理由を次の①～⑩の中から2つ選んで、番号を□に記入してください。

- ① 学習の習慣を身につけるため ⑧ きらいな教科をなくすため
 ② 基礎学力を身につけるため ⑨ 教養を高めるため
 ③ 授業に積極的に参加するため ⑩ その他 ()
 ④ 学習成績を向上させるため
 ⑤ 受験でよい結果を得るため
 ⑥ 思考力を高めるため
 ⑦ 得意な教科の学力を伸ばすため

【3】あなたのお子さんの家庭学習は次の中のどのタイプですか。①～⑦の中から2つ選んで番号を□に記入してください。

- ① 宿題中心 ② 復習中心 ③ 予習中心
 ④ 自主学习中心 ⑤ 受験勉強中心 ⑥ 塾などの勉強中心 ⑦ その他 ()

【4】あなたのお子さんは、家庭学習でどんなことに力を入れていますか。①～⑥の中から選んで番号を□に記入してください。

- ① 記憶中心 ② 思考中心 ③ 作業中心 ④ 調べごと中心
 ⑤ 練習中心 ⑥ その他 ()

【5】あなたはお子さんの家庭学習を効果的にするために、どんなことに留意していますか。次の①～⑧の中から該当する項目を2つ選んで、番号を□に記入してください。

- ① 学校の授業との関連を重視している。
 ② ある程度強制してもやらせるようにしている。
 ③ 子どもが困っているとき相談相手になってやるようにしている。
 ④ 子どもが学習しやすいふんい気をつくるようにしている。
 ⑤ 子どもの健康面に気をつけるようにしている。
 ⑥ 子どもの性格や行動の変化に気をつけるようにしている。
 ⑦ 子どもの自由意志にまかせあまり干渉しないようにしている。

⑧ その他 ()

【6】あなたのお子さんが、家庭学習で重視している教科は何ですか。次の教科に順位をつけて番号を□に記入してください。

国語	社会	算数(数学)	理科	英語
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

(※小学生は英語を除く。)

【7】設問6の順位はどんな理由でつけましたか。次の①～⑧の中から該当する項目を2つ選んで番号を□に記入してください。

- | | |
|----------------------|----------------------|
| ① 学校の授業だけでは理解できないから | ⑥ テストの成績が悪くなるから |
| ② 子どもにとって重要な学力だから | ⑦ 受験内容と関係が深いから |
| ③ 学習する内容が多いから | ⑧ その他 () |
| ④ 子どもが特に興味をもっているから | <input type="text"/> |
| ⑤ 学習しないと授業が分からなくなるから | <input type="text"/> |

【8】あなたのお子さんは学校の宿題をやりますか。次の①～④の中から該当する項目を選んで番号を□に記入してください。

- ① 忘れずにやる。 ② 大体やっている。 ③ ときどき忘れる。
- ④ ほとんどやらない。

【9】学校から出される宿題の量はどうか。次の①～④の中から該当する項目を選んで番号を□に記入してください。

- ① とても多すぎる ② 少し多すぎる ③ ちょうどよい ④ 少なすぎる

【10】学校から出される宿題の内容の程度はどうか。次の①～④の中から該当する項目を選んで番号を□に記入してください。

- ① とてもむずかしい ② 少しむずかしい ③ ちょうどよい
- ④ やさしすぎる

【11】宿題がむずかしいときどうしていますか。次の①～⑥の中から該当する項目を選んで番号を□に記入してください。

- ① 自分で調べる。② 友人に聞く。③ 父親に聞く。④ 母親に聞く。
- ⑤ そのままにしておく。⑥ その他 ()

【12】宿題として出されるのはどんな教科の内容が多いですか。次の教科に順位をつけて番号を□に記入してください。

国語	社会	算数(数学)	理科	英語
<input style="width: 50px; height: 40px;" type="text"/>	<input style="width: 50px; height: 40px;" type="text"/>	<input style="width: 50px; height: 40px;" type="text"/>	<input style="width: 50px; height: 40px;" type="text"/>	<input style="width: 50px; height: 40px;" type="text"/>

(㊸小学生は英語を除く。)

【13】予習・復習・自主学習・受験学習をどのようにしていますか。次の表の①～③の各項目について、該当する欄に○印や文字を記入してください。

学習タイプ	項目	① 家庭学習として		② 主に行う教科名 (㊸いくつあげてもよい)	③, ②をあげた主な理由
		している	しない		
㊷	予習	<input style="width: 50px; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 50px; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>
①	復習	<input style="width: 50px; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 50px; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>
㊷	自主学習	<input style="width: 50px; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 50px; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>
㊸	受験学習	<input style="width: 50px; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 50px; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/>

(㊸国, 社のように略称で記入してください。しているに○印を記入した人のみ右の項目に回答してください。)

【14】あなたのお子さんの家庭学習の時間は1日平均どのくらいですか。次の①～⑨の中から該当する項目を選んで番号を□に記入してください。(㊸学習塾などは除いた時間です。)

- ① 10分程度 ② 20分程度 ③ 30分程度 ④ 1時間程度 ⑤ 1時間～1時間半程度 ⑥ 1時間半～2時間程度 ⑦ 2時間半～3時間程度 ⑧ 3時間以上 ⑨ その他()

【15】あなたのお子さんは、いつ家庭学習をしていますか。次の①～⑦の中から該当する項目を選んで番号を□に記入してください。

- ① 帰宅してすぐ ② 夕食前 ③ 夕食後休んでから ④ 夜家族が寝てから ⑤ 朝早く起きて ⑥ 決まっていない ⑦ その他()

【16】あなたのお子さんの家庭学習への取り組み方はどうですか。次の①～⑨の中から該当する項目を選んで番号を□に記入してください。

- ① 自分から進んで意欲的にやっている。 ④ いろいろしながらやっている。
② とても楽しそうにやっている。 ⑤ 文句をいいながらやっている。
③ のんびりした気持ちでやっている。 ⑥ その他()

【17】あなたのお子さんはどんな方法で家庭学習をしていますか。次の①～⑤の中から該当する項目を選んで番号を□に記入してください。

- ① 主に教科書を使って ② 主に参考書を使って ③ 主に問題集を使って ④ 主に学習機器を使って ⑤ その他 ()

【18】家庭学習をしてどんな効果がありましたか。次の①～⑩の中から該当する項目を2つ選んで番号を□に記入してください。

- ① 学校の授業がよく理解できる。 ② 自分で問題を解決する力がつく。 ③ 記憶力がよくなる。 ④ 思考力が高まる。 ⑤ 自主性が高まる。 ⑥ よい生活習慣が身につく。 ⑦ 計画性が身につく。 ⑧ 教養が高まる。 ⑨ 意志が強くなる。 ⑩ その他 ()

【19】家庭学習によってどんな問題が生じていますか。次の①～⑩の中から該当する項目を2つ選んで番号を□に記入してください。

- ① 身体的にとっても疲労する。 ② 体力がおちてくる。 ③ いらいらして短気になる。 ④ 物の扱いが乱雑になる。 ⑤ 家事の手伝いをしなくなる。 ⑥ 家族との触れ合いが少なくなる。 ⑦ 依頼心が強くなる。 ⑧ 落ちつきがなくなる。 ⑨ 思いやりに欠けてくる。 ⑩ その他 ()

【20】あなたのお子さんは家庭学習でどんな種類の教材を使用していますか。次の①～⑮の中から該当する項目を選んで番号を□に記入してください。(㊥いくつ選んでもよろしいです。)

- ① 国語辞典 ② 漢和事典 ③ 英語辞典 ④ 国語の参考書 ⑤ 社会の参考書
⑥ 算数(数学)の参考書 ⑦ 理科の参考書 ⑧ 英語の参考書 ⑨ 国語の問題集
⑩ 社会の問題集 ⑪ 算数(数学)の問題集 ⑫ 理科の問題集 ⑬ 英語の問題集
⑭ 学習機器の教材 () ⑮ その他 ()

㊥教科名を書いてください。

【21】あなたのお子さんの家庭学習の教材はどのようにして手に入れていますか。次の①～⑩の中から該当する項目を2つ選んで、番号を□に記入してください。

- ① 書店に行って現物を見て ⑥ テレビのコマーシャルを見て
② 友人や知人から聞いて ⑦ 訪問販売員に勧誘されて
③ 学校の先生から聞いて ⑧ 塾などの先生からすすめられて

③ 量的に多すぎて使いこなせない。⑥その他 ()

【26】あなたのお子さんは、学習塾など、ほかの先生に教わっていますか。次の①～⑥の中から該当する項目を選んで番号を□に記入してください。

① 学習塾 ② 進学教室 ③ 家庭教師 ④ 通信教育 ⑤ その他
() ⑥ 特にない。

(※①～⑤を選んだ人は、設問27～31に回答してください。)

【27】学習塾など他の先生に教えてもらうために、1か月にどのくらいの費用をかけていますか。次の①～⑥の中から該当する項目を選んで番号を□に記入してください。

① 5,000円程度 ② 10,000円程度 ③ 15,000円程度 ④ 20,000円程度
⑤ 25,000円程度 ⑥ 30,000円以上

【28】どんな教科を教えてもらっていますか。次の①～⑤の中から該当する項目を選んで番号を□に記入してください。(※いくつ選んでもよろしいです。)

① 国語 ② 社会 ③ 算数(数学) ④ 理科 ⑤ 英語

【29】1週間平均してどのくらいの時間教えてもらっていますか。次の①～⑥の中から該当する項目を選んで番号を□に記入してください。

① 1時間程度 ② 1時間半程度 ③ 2時間程度
④ 2時間半程度 ⑤ 3時間程度 ⑥ その他 () 時間

【30】教えてもらった効果はどうですか。次の①～③の中から該当する項目を選んで番号を□に記入してください。

① 大変効果があがっている。 ② まあまあの効果があがっている。
③ あまり効果はあがっていない。

【31】どんな効果があったか次のA、Bの中から該当する項目を1つを選んで番号を□に記入してください。(※設問30で①と②を選んだ人だけ回答してください。)

A { ① 学習に興味をもつようになった。
② 学習に自信をもつようになった。
③ 学習を進んでするようになった。
④ その他 ()

B { ① 理解力が深まった。
② 思考力が高まった。
③ 集中力が高まった。
④ その他 ()

A

B

【32】 教えてもらった結果、問題は生じていませんか。次の①～③の中から該当する項目を選んで番号を□に記入してください。

- ① 多くの問題が生じている。 ② 少し問題が生じている。
③ あまり問題はない。

(㊟設問32で①、②を選んだ人だけ回答してください。)

【33】 どんな問題があったか、次のA、Bの中から該当する項目を1つ選んで番号を□に記入してください。

- | | | | | | |
|---|---|-----------------------|---|---|----------------|
| A | { | ① 自分ひとりで学習しなくなった。 | B | { | ① 行儀が悪くなった。 |
| | | ② 学校の授業に興味を示さなくなった。 | | | ② 無駄づかいが多くなった。 |
| | | ③ 自分から調べたり考えたりしなくなった。 | | | ③ 生活が不規則になった。 |
| | | ④ その他() | | | ④ その他() |

A

B

【34】 あなたのお子さんの部屋は家庭学習をする上でどんな状態ですか。次の①～③の中から該当する項目を選んで番号を□に記入してください。

- ① 大変勉強しやすい状態である。 ② まあまあ勉強しやすい状態である。
③ 勉強しにくい状態である。

【35】 あなたのお子さんが勉強する部屋にあるものを次の①～⑫の中から選んで番号を□に記入してください。

(㊟いくつ選んでもよろしいです。)

- ① 机、(座机を含む) ② 椅子 ③ 電気スタンド ④ 本棚 ⑤ 鉛筆削り
⑥ 時計 ⑦ ラジオ ⑧ テレビ ⑨ レコードプレイヤー ⑩ テープ式録音機
⑪ シート式録音機 ⑫ その他()

【36】 あなたのお子さんが勉強する部屋には、学習に必要な参考書などは十分整っていますか。次の①～④の中から該当する項目を選んで番号を□に記入してください。

- ① 十分整っている。 ② 大体整っている。 ③ 少し整っている。
④ ほとんど整っていない。

【設問 [37]～[39] は略